

# 部門別紹介

## 診療部

外科(消化器・乳腺甲状腺)  
内科・総合診療科  
循環器内科  
消化器内科  
眼科  
泌尿器科  
整形外科  
脳神経外科  
小児科  
麻酔科  
脳神経内科  
糖尿病内科  
ペインクリニック内科  
心療内科

## 看護部

看護部長室  
外来  
手術室・中央材料室  
2階病棟  
(外科・脳外・整形外科病棟)  
3階西病棟  
(内科・眼科・小児科病棟)  
3階東病棟  
(地域包括ケア病棟)  
4階病棟  
(回復期リハビリテーション病棟)  
透析室  
外来化学療法室  
救急チーム  
クラーク室

## 診療支援部

薬剤室  
中央画像診断室  
中央検査室  
臨床工学室  
栄養管理室  
リハビリテーション室  
地域医療連携室

## 事務部

総務課  
医事課  
広報企画課

## 直轄部門

医療安全管理室  
システム管理室  
感染制御部



---

# 診 療 部

---

# 外科(消化器・乳腺甲状腺)

外科部長・副院長 濱之上 雅博

まさかCOVID-19がこんなに長く続くとは想定していなかった2021年。現在この原稿を書いている2022年でも発症人数は高止まりしており、ワクチン接種が4回目を迎えようとしています。

このような医療状況ではありますが、当院は熊毛地区の医療の砦としての役目を果たしており、すべてのスタッフに感謝するところです。その中で、外科は腫瘍外科・一般外科・救急を担って診療を続けており、島内で求められる手術加療・がん治療を、このコロナ下でこそ島内で完結できるよう努めています。

現在、外科は私を含め3人で担当しています。出先先生は、2022年3月まで3年間、手術・診療ともに外科の中心となって活躍してもらいました。後任として佐竹先生に引き続き手術・救急の中心として活躍してもらおう予定です。また2021年4月より9月まで鮫島一基先生が、また2021年10月より2022年3月まで冨田先生に赴任いただき、頑張ってもらいました。2022年4月より吉野先生に活躍してもらおう予定です。

外科医でもある院長の高尾先生には、COVID-19の対策・変化する医療環境への対応が大変な中、外科治療に関し広く助言をいただいています。医療環境が厳しくなる中、安心して診療ができるのは、医療経営が重要であり高尾院長の指導力に感謝・感銘しています。

現在、我が国において、死因の一位となっているのは“癌”です。癌の中でも消化器癌・乳癌・甲状腺癌の割合が高く、外科で扱う主たる疾患となっています。また、当院は国より“地域がん診療病院”の指定を受けており、熊毛地区における“癌”の予防検診・適切な治療の導入・がん患者さんと家族の方の社会的支援などを行うことが求められています。

癌治療に関しては、当科が担う手術療法・化学療法と呼ばれる薬による治療・放射線治療があります。放射線治療は鹿児島市内の病院と連携して行っており、手術療法は、現在広く行われるようになった腹腔鏡の手術も標準的に導入しています。

私は、肝胆膵領域の手術を中心に癌治療を行ってきました。ただ、肝胆膵領域の癌は、難治癌も多く、他の領域の消化器癌より治療が難しいのが現状です。しかし、肝癌・肺癌などの難治性の癌にも、近年、免疫checkポイント阻害剤と分子標的薬と呼ばれる新規抗がん剤を用いた免疫化学療法が多数導入され、適応のある患者さんには今までにない効果を認めています。化学療法は、手術療法と並ぶ重要な癌の治療法であり、当院においては種々の癌に対する化学療法に対し、化学療法チームを組織し治療にあたっています。

コロナ禍で島外の病院から化学療法を依頼されるcaseが増加しています。化学療法は、個々の患者で違う危険性を持っています。当院では、紹介症例を受け入れられるように化学療法を安全に行う環境整備を行っていきます。

癌の状態に合わせて緩和治療を導入することが癌の治療にとって重要であることが示されています。当院では看護師さん・paramedicalのスタッフを中心に緩和ケアチームが組織されており、患者さんに寄り添った緩和ケアを目指しています。両チームの活動は、別項を参照ください。

今回、コロナ感染による通常診療の制限下で、手術・化学療法の遅延が患者さんの生命に直接影響を与える事態を経験しました。がん治療のトリアージが必要となるパンデミックの怖さを感じました。幸い、現在は通常診療可能となり、患者さんに迷惑をかけず診療遂行できています。困難な状況ではありますが、今後も熊毛地区の医療を守るため、ご支援よろしく申し上げます。

### <追記>

当院においてコロナ感染が落ち着かない状況下で、2022年2月24日にロシア軍のウクライナ侵攻が始まった。現在4月の時点でも侵攻は続き、ウクライナにおける戦闘は泥沼化を呈している。ロシア軍侵攻は、歴史上プーチンの戦争として記憶されるだろうが、その結末とその後の世界は現在全く想定できず、第三次世界大戦のリスクが冗談ではなく語られる状況にある。

この原稿をいつ書くかも難しく、一か月たてば世界情勢が大きく変わっていることが考えられる状態である。世界リスクのなかで起こる可能性が低いリスクをブラックスワンと呼ぶが、ここ数か月、この想定外のリスク;長引くCOVID-19の感染、ロシアのウクライナ侵攻、それに伴うエネルギー・資源の高騰・サプライチェーンの混乱によるインフレ、などが立て続けに起こっており、この2020年代前半は、政治・経済において人類史上の転換点として記憶されるだろう。

特に日本が今後、世界の中で衰退した国となっていくか、もしくは新たな技術革新・社会システムをつくり、世界で重要な国家となれるかが決まると思う。この『飛魚』が皆さんの目に触れるとき、少しでも、世界また日本の状況が良くなっていることを祈るばかりである。

# 内科・総合診療科

理事長 田上 寛容

当院の令和3年度における内科外来は、島田紘一先生を中心に、高尾尊身院長先生、総合診療科の松本松昱先生、伊集守知先生、また非常勤医師として窪菌修先生、また内科領域の各診療科の先生に担当して頂きました。

当院内科にとって、令和3年度は新型コロナウイルス感染症への対応を行いながらも、島内の急性期中核病院としての通常診療も併行して行わなければならないという難しい局面でしたが、内科外来の看護師、クラークを始めとするスタッフの協力も得ながら、患者様への影響を最小限にとどめた内科診療を継続することが出来たと思います。

さて、全国的な新型コロナウイルス感染拡大にともない、種子島でも感染者の発生は避けられず、令和3年8月にはデルタ株(第5波)により、令和4年3月にはオミクロン株(第6波)による感染者の多発を認めました。当院では、発熱などの感冒様症状を訴える方に対しては、病院玄関前もしくは別棟にて病歴の聴取、及び抗原検査もしくはPCR検査を行い、感染者のスクリーニングを行ってきました。また入院患者においては、内科病棟において感染症病床の他にもゾーニングされたコロナ専用病床を設け、内科系医師が担当となり入院患者への診療に当たってきました。

当院での新型コロナウイルス感染症に対する診療状況について、令和3年8月に見られたデルタ株による感染拡大の際には、肺炎の合併より酸素を必要とする中等症以上の感染者も多く、感染病床も限られていたために保健所と協議の上、高次医療機関への搬送となる場面もありましたが、令和4年3月のオミクロン株による感染拡大では、ほとんどの方が軽症であり、クラスターの発生も認めましたが、島内宿泊療養所の開設もあって、島内での完結的な対応を行うことができました。

現在でも、島内での感染者の発生は少人数ながら続いており、全国的なコロナ禍の収束はまだ見通せない状況ですが、当院内科は島内の感染症診療の中心であり、コロナ対応の最前線の診療科として、また通常診療においても一般診療における病院の窓口であるという役割を果たすべく、医師及びスタッフの連携協力のもと診療に当たってきたいと思います。

# 循環器内科

鹿児島大学 心臓血管・高血圧内科学 教授 大石 充

種子島医療センターで月1回の循環器外来をさせていただいて、はや6年目に突入しました。大阪から出て来て3年目であったこともあり、最初はお年寄りの話している内容の2割程度しかわかりませんでした。今ではその倍程度はわかるようになりました。4割程度しかわかりませんが、島の人はいいい人ばかりなので、私が何度も聞き直すと、わかりやすい言葉に変えてくれるので診療には不自由しておりません。

ただし、数多くの“種子島あるある”に遭遇して戸惑うことも少なくありません。減塩や減量などの生活習慣の改善を説明しても、「そーなー」ってニコニコ笑って言われてしまうと、「頑張ってるねー」としか返すことができず・・・そんな素朴な島の人が大好きになりました。

種子島で外来をさせていただいて、驚いたこともたくさんあります。一番驚いたことは島民の我慢強さと体力の強さです。一般社会生活を営む上においては非常に重要で、プラスに働くのですが、根底にある体力が非常に強く我慢強いがゆえに、病気になった時にそれが表面に現れにくく、重症化してから医療関係に情報が伝わることで、治療が後手後手に回ってしまうことが多いように感じました。

また最先端医療から距離があるので、医療を受けることそのものをあきらめてしまい、“寿命だから”、“運命だから”といった潔さも感じました。鹿児島の医療を預かる一人として、やはり種子島の皆様にも最先端医療を受けていただく必要性を強く感じて、今年の4月より循環器内科医2名を常勤医として派遣することにしました。鹿児島大学病院心臓血管内科と密に連携しながら種子島島民の健康長寿達成に貢献したいと思っております。

私は“赤ひげ先生になりたい”と思って医師になりました。私の本当の理想は「お金がないから支払いはちょっと待って。その代わり家で取れた大根を持ってきたよ。」と言われて、「お金なんていつでもいいから健康で長生きしなよ。」なんて言葉を交わしながらも、患者さんには最先端の医療を経験してもらい、予防の啓発をするような医師なのです。若い方にはDr.コトーみたいな感じといった方がわかりやすいかもしれません。

優柔不断な性格が災いをしたのか、どこでどのように歯車が狂ったのかわかりませんが、現在鹿児島大学で教授という職に就かせていただいております。赤ひげ先生とは全く真逆の立ち位置であり、人生の不思議さを感じます。

月1回に3時間だけですが、種子島医療センターで外来をさせていただいている時間が僕にとっての“赤ひげ先生”の時間だと思って、とても大切に楽しみにしておりますので、これからもよろしく願いいたします。

# 消化器内科

## 消化器内科部長 篠原 宏樹

2021年4月より当院に赴任させていただき、2022年4月より2年目に入りました。消化器内科は、食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、肝臓、胆管・胆嚢、膵臓など多岐にわたる臓器の疾患、胸焼け、腹部不快感、腹痛、便秘、吐血、下血などの多彩な症状に対応しております。

常勤医としては2人体制ではありますが、鹿児島大学病院、鹿児島市立病院、今村総合病院より定期的に当院に応援に来てくださる非常勤医師とも協力しながら、鹿児島市内の医療レベルに劣らない医療を島民の皆様に提供したく、日々の仕事に励んでいます。

当科では、通常の外来診察に加えて、胃カメラ、大腸カメラ、胆膵内視鏡などの内視鏡検査、内視鏡処置も行っております。胃カメラ約1400件/年、大腸カメラ約700件/年、ERCP約40件/年程度行っております。医療機器も最新の機材を用いており、内視鏡治療も含めて可能な限り島内で治療を完結できるように対応しております。ただ、当院だけでは対応が困難な場合、鹿児島大学病院、鹿児島市立病院をはじめとした鹿児島市内の病院とも連携をとる体制を整えております。

当科としましては、内視鏡検査件数は前年度と比較すると増加傾向にはありますが、種子島の人口を考慮するとまだまだ検査件数も十分とは言えません。近年、新型コロナウイルス感染症の島内流行に伴い、内視鏡検査が行えない厳しい状況も度々ありました。しかし、定期的な内視鏡検査を行うことによって、進行癌の早期発見・予防につながる事が可能ですし、早期癌も内視鏡的に根治治療が可能な時代ですので、今後も啓蒙活動を続けたいと思っています。

また、胃潰瘍および胃癌の予防として有効であると報告されているピロリ菌除菌治療についても積極的に行っております。ピロリ菌検査および除菌治療については、胃カメラ検査が必須になりますので、ここ最近、胃カメラ検査を行っていない方には早期の胃カメラ検査をお勧めしております。大腸カメラ検査も、最近行っていない方はご検討ください。

このほかに当科で行っている診療、検査、内視鏡治療の一部です。

- 早期胃がんに対する内視鏡治療(内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)、内視鏡的粘膜切除術(EMR))
- 閉塞性黄疸に対する内視鏡的胆道ドレナージ術、減黄治療
- 総胆管結石に対する内視鏡的排石術
- 上部・下部消化管出血に対する内視鏡的止血術
- 魚骨、内服薬シートなどの誤嚥に対する内視鏡的異物除去術
- 潰瘍性大腸炎、クローン病など炎症性腸疾患に対する治療

今後も種子島島民の皆様に最良な医療を提供できるよう、努力して参ります。どんな些細なことでも構いませんので、何でも相談してください。

# 眼科

副院長兼眼科部長 田上 純真

眼科では、白内障、緑内障、網膜疾患、角膜疾患の他、小児斜視弱視、加齢黄斑変性、黄斑円孔、網膜浮腫まで眼科疾患全般を診察しており、ここ数年、コロナ禍の影響で患者数が減少していますが、令和3年度の外来受診患者数は1万309人、年間434例の手術を行いました。

毎週火曜、木曜、金曜の午後は、手術日となっており、網膜硝子体手術、翼状片手術のほか、種々のレーザー治療、加齢黄斑変性症および黄斑浮腫に対するラニビズマブ・アフリバルセプト硝子体注射など外科的治療も行っております。

おかげさまでとくに変わらない1年でした。外来、病棟、手術室の優秀なスタッフにいつも感謝しています。

「起きて半畳、寝て一畳、天下取っても二合半」

患者さま満足度No1をめざして、また頑張ります。よろしくお願ひいたします。

# 泌尿器科

泌尿器科部長 中目 康彦

泌尿器科は尿の生成、排尿に関係する臓器(腎臓、尿管、膀胱、尿道)および精巣、陰茎、前立腺など男性特有の臓器のほとんどすべての病気を取り扱う診療科目です。

診療日は月・火・木・金曜日の午前中で、午後は検査、処置、急患、病棟業務にあてています。水曜日の午前中は、田上診療所で、中種子町・南種子町の定期健診や交通の便で当院まで来院できない方を中心に診察しています。検尿、採血、CT単純～造影は、できるだけ当日に行っています。前立腺組織検査は、入院のうえ、手術室にて安全にできるように努めています。

私の種子島との初めての記憶は、操縦席の見える飛行機で砂浜に着陸したことです。何歳だったか不明ですが、思い出に強く残っています。その後、年1回程度、父の実家に帰っていました。満員の船には弱りましたが、釣りなどを楽しむ思い出が残っています。

年数が経ち、泌尿器科医として週1回、西之表市の中目医院で診察を始めてから35年経ち、今回、今給黎総合病院(現在、上町いまきいれ病院)を退職し、コロナ禍の大変な時期であった令和3年9月より種子島医療センターで勤務させてもらっています。

住み始めた以上は、微力ながら役に立てるよう努めていきます。



# 整形外科

## 整形外科部長 前田 昌隆

種子島医療センターに着任してはや2年も経ち、今回の寄稿は、自分はこの2年どう過ごしてきたのだろうと考えてみる機会となりました。

仕事としては整形外科部長として初めての部長職となりました。いざというときの決断と責任が必要とは考えますが、しっかり者の部下や周りの先生方、スタッフがいればそんなに大それたことはない。6人の整形外科の若い先生と、ここでは一緒に働いてきた。皆、個性があり一様ではない。時折、突発的に衝撃的なことを言ったりした者もいるが、今考えれば可愛いものだ。逆に将来が楽しみでもあったりする。

自分とはいうと、前の高橋部長ほどaggressiveではないのだろうか。患者が希望すれば、市内の病院へ紹介することをそんなに厭わない。病院にとっては申し訳ない話ではあるが、今あるところをしっかりとやっていく、それが回り回ってくると考えている。

自分の専門は、関節・スポーツ、膝などとなってはいるが、まだまだ発展途上ではある。最近、自分も膝が痛くなり(棚障害)、自分で治したいと考えてYouTubeを見て、改めて勉強。いつもやっているような整形外科の手術や外来とは違う、理学療法士の有名な先生方の話を聞くことが多くなった。元々興味があったが、今回は園部俊晴(コンディショニングラボ、理学療法士)の『園部俊晴の臨床:膝関節』という本を買って読み始めている。

膝の痛みもいろいろあって、組織学的や力学的推論による仮説を立てて検証(仮説検証)していくことで、痛みの本質を知り治療をしていくことを伝えている。これを体現するには解剖や力学の知識の積み上げと検証の際に用いる手技の習得など盛りだくさん必要となる。

今回、病院として2022年4月に当院救急チームの立ち上げにより、新たな一步を踏み出した。救急患者の病歴・病状から仮説を立てて治療していく。これにも幅広い知識と経験が今後必要になると考える。検証していくことで今後の財産になると思うので頑張っていたきたい。

さて、今年もコロナ禍が続いて笑顔がなかなか見えない(マスクもあり)日々ではあるが、我々の仕事は続いており、10~20年前とは違った新たな診察(特にエコー)、治療(Biotherapy、体外衝撃波)が出て来ている。『日々精進』の気持ちで、皆が病気や怪我から笑顔になれるようにしていければと考えております。

# 脳神経外科

脳神経外科部長 駒柵 宗一郎

当院脳神経外科は、2019年7月から常勤医が不在でしたが、2020年10月から常勤医による診療を再開し、早くも1年6ヶ月が経過しました。2022年4月から脳外科の医師が1人増え、常勤医2名体制での診療を行っており、鹿児島大学病院と鹿児島市立病院からも応援をいただきながら診療を行っています。

当院では、特に超急性期脳梗塞に対する血栓溶解療法(t-PA静注療法)、血栓回収療法に力を入れて行っております。超急性期脳梗塞に対する治療では、血栓によって閉塞した血管を、脳組織が壊死する前に可及的速やかに再開通させることが重要です。

当科では、2020年10月から12月までに血栓溶解療法1件、血栓回収療法1件、2021年1月から12月までに血栓溶解療法8件、血栓回収療法3件、2022年1月から4月までに血栓溶解療法2件、血栓回収療法2件を行っております。年々施行件数が増加してきております。症状が完全に改善された方は多くはありませんが、元通り歩いて家に帰ることができた患者様もいらっしゃいます。

血栓溶解療法、血栓回収療法ともに時間が勝負ですので、来院後、いかに早く治療を開始するかが患者様の予後に影響します。当院では超急性期脳梗塞の患者様に対する診察、検査、処置についてはあらかじめ決めておき、治療開始までの時間を短縮させる取り組みを行っており、この取り組みを「t-PAモード」と呼称しております。まだまだ改善の余地はありますが、少しずつスタッフの連携が出来てきており、時間の短縮に成功しています。

以前は脳梗塞を発症しても、ドクターヘリで鹿児島市内に搬送が必要であったため、移動に少なくとも1時間を要しておりました。夜間や天候不良時にはもっと時間がかかり、搬送が不可能な場合もありました。種子島で血栓溶解療法、血栓回収療法を行うことが可能となったため、以前より迅速に治療を開始することができます。

しかし、脳梗塞を発症した際に、患者様自身もしくはご家族がすぐに救急要請して当院に来院いただかなければ、これらの取り組みも意味がありません。そのため、コロナ禍で難しい面もありますが、今後島民の方々への啓発も進めていければと考えています。

島民の方々に最良の医療を提供できるようにこれからも頑張りますので、よろしくお願いいたします。

# 小児科

小児科部長 岩元 二郎

## 2021年度のあゆみ 種子島医療センター小児科報告

2017年4月以降小児科部長として、岩元が種子島医療センターに赴任以来、小児科3名体制で運営をしてきましたが、2021年4月岩元は中種子町の田上診療所の所長として赴任したため、種子島医療センターは実質小児科医2名体制となりました。(岩元は田上診療所所長と種子島医療センター小児科部長を兼務としています)

### 【人事】

2021年4月光延拓朗医師が鹿児島市立病院に転出、代わり森山瑞葵医師が鹿児島市立病院小児科から転入してきました。2021年度は岡田聡司医師と森山の2名体制でした。

2022年4月に岡田が鹿屋医療センターに転出し、代わりに井無田萌医師が済生会川内病院から転入してきました。2022年度は森山と井無田の女性医師2名体制となっています。毎週月曜と金曜の午前8時から定期カンファランスを部長と常勤医の3名で行っています。

【専門外来】 前年に引き続き以下の4つの専門外来を継続できています。

- 小児血液外来(2か月に1回):鹿児島大学小児科前教授の河野嘉文教授から岡本康裕新教授に引き継ぎで継続されています。
- 小児外科外来(月1回):鹿児島大学小児外科教授の家入里志教授が継続。
- 小児循環器外来(2か月に1回):公立種子島病院徳永正朝院長が継続。
- 小児発達外来(月2回):発達障害診療を中心に岩元二郎が継続。  
また、月2回土日の応援診療として、昨年に引き続き根路銘安仁教授と中村達郎医師に協力をいただいています。

### 【院外活動】

院外の活動として、自治体の乳幼児健診を西之表市と南種子町は2名の常勤医で、中種子町は岩元が担当しています。また西之表市の学校医活動として、従来の榕城小と種子島中学校に加えて2020年度から新たに古田小と安城小の2校の依頼があり対応しています。

へき地医療センターとして種子島産婦人科医院での新生児診察、1カ月健診、母親学級での保健指導も継続で行っています。さらに西之表市の依頼で5歳以上の小児から中学生までの新型コロナワクチン接種にも小児科医として協力してきました。岩元は発達外来として屋久島徳洲会病院での月1回の屋久島診療を継続しています。

### 【2021年度振り返り】

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響で、2020年度以降、小児科診療が大きく様変わりしました。2021年度の年間入院実数は58例で、コロナ流行前(2019年度以前)より明らかに減少しています(2019年度101名、2020年度53名)。

小児のコロナ入院例は13例で、ほとんど家庭内感染が主体でしたが、すべての患者で軽症でした。小児科の外来診療は従来感染症患者が主体となっていましたが、コロナの感染防止対策(3密防止、手洗い、マスク)の徹底で季節性の感染症が激減しました。

特にインフルエンザに至っては、2021年と2022年の冬場の流行期は小児患者が皆無に近い状況でした。“激変”を実感しました。ウイルス界も勢力争いがあるのだと想像されますが、感染防止対策を徹底すれば一般の感染症も明らかに減るとい実態を見せつけられた印象です。

コロナ禍により、今後の小児科診療は診療形態を変えてしまう程のパラダイムシフトをもたらすかもしれません。功罪としては、学会や研究会の現地開催を要する出張の機会が減った分、ネット環境下でのWeb講演会や研修会、学会等が島に居ながらも自宅で聴講、参加できるようになったのはコロナ禍の福音とも言えるでしょう。

逆に職員どうしや他職種との交流の機会である飲みニケーションが激減し、その影響で病院の活力が低下したのは明かに負の遺産となりました。2022年はパンデミック3年目になりましたが、終息を願うのと同時にWithコロナとして、インフルエンザ並みの通常の感染症扱い(2類から5類感染症)に移行できるような国の措置を願うばかりです。

# 麻酔科

麻酔科部長 高山 千史

こんにちは、種子島医療センター麻酔科の高山です。

種子島医療センターの麻酔科は、2005年の1月から常勤体制となりました。

2021年の年間症例数は、310例(延麻酔時間888時間、高山個人で380時間)となりました。2019年は、307例(延麻酔時間882時間、高山個人で584時間)でした。コロナ禍で島外での手術を避ける傾向が続いております(2019年比24%増。2020年比1%増)。

高度救命救急士の挿管実習も2006年より開始し、患者さんの協力も引続き90%台を越える協力をいただき、順調に進んでいます(現在23人目)。社会復帰率も、年々上昇してきています。10%まで、後一息です。2007年より、MC協議会の作業部会長を務めることになり、事後検証・症例検討会が定期化されました。2・3ヶ月に一回のペースです。コロナ禍、2021年に1月から、休止中です。

ところで、当病院は、島内、唯一の総合的病院として、2008年より引き続き、種子島産婦人科医療に深く寄与しております。産婦人科のバックアップに当たっているからです。

産婦人科業務のバックアップ体制については、鹿児島大学病院産婦人科・麻酔科と種子島医療センター(204床:常勤医20名:島内唯一の総合的病院)が協力して行っております。

バックアップ体制としては、

1. 隔週、土日と祭日は、産婦人科代診医が大学より派遣され、完全休養日となる。
2. 定期の待機手術は、水曜日から月曜日に変更。

麻酔担当は、種子島医療センター。

帝王切開等の小侵襲手術は、産婦人科医院で行い、腹腔鏡手術や侵襲度の高い手術は、種子島医療センターで外科医介助の元に行う(オープンシステム)。

待機手術の術前の麻酔科診察は、全例、種子島医療センターで、私が行っております。

3. 緊急手術時の麻酔は、種子島医療センターが24時間対応。月二回、土日は、高山医師の代診医を大学より種子島医療センターへ派遣していただいております。
4. 新生児診察を、毎週、火・金の午後、種子島医療センター小児科医が出張応援。

以上のとおり、産科医の孤立した医療体制に陥らないように計画・実施されています。一時期、助産師不足の危機に陥りましたが、住民・行政・医療者一体となった対応にて、現在5~6人体制を維持しています。保健センターとの相互協力も進んできました。将来的には、院内助産師外来の充実・院外助産院の設立・助産師研修医院を目指していこうと考えています。

なお、現体制下、開院当初より、14年間の産婦人科の業務実績は総出生数:2863件。(今年は減少傾向です。コロナ禍、里帰り出産が激減しました。)

これだけの数の産声が、守られました。

麻酔科の直接関連では、帝王切開手術:386件 オープンシステム手術:227件です。

今後とも、種子島地区の地域医療の中核として、地域麻酔科医として、頑張っていきたいと考えています。

# 脳神経内科

鹿児島大学病院 脳神経内科医師 樋口 雄二郎

脳神経内科は、現在4人で毎週1回、火曜日の外来を担当しております。外来では主にパーキンソン病をはじめとした変性疾患、炎症性・自己免疫性疾患(重症筋無力症、HAM、多発性硬化症、CIDP、神経サルコイドーシス、多発筋炎、神経ベーチェット病)、神経変性疾患(脊髄小脳変性症、ALS、CMT)、ミトコンドリア病、てんかん、不随意運動など、幅広いニーズに応えています。

また、頭痛、めまい、しびれ等の一般的な神経症状に関する相談も行っております。種子島では、神経内科の専門外来を行っている医療機関が少なく、周辺地域の先生方にもご協力頂きながら、診療を行っております。

入院対応が必要な患者様については、内科や整形外科の先生方にもご協力いただきながら診療を行っていますが、重症患者や専門病棟での入院治療が必要な場合には、鹿児島大学病院や鹿児島市内の関連病院(鹿児島市立病院、鹿児島医師会病院、いまきいれ病院など)とも連携を図りながら行っております。

昨年度は、パーキンソン病患者のデュオドーパ治療(飲み薬では十分な治療が難しくなったパーキンソン病患者さんのために、携帯用のカセットに専用ポンプとチューブを使って胃ろうから、直接小腸にお薬を切れ目なく送り届ける投与システムを使った治療方法)を大学病院との連携し初めて導入することもできました。

島内住人の高齢化も年々深刻化し、認知症やパーキンソン病患者が年々増加しており、特に、神経難病の診療には時間と労力を要しますが、外来看護師の永田さんとクラーク榎本さんを含む病院スタッフのおかげで非常に円滑に外来診療を行っております。この場を借りて常勤の先生方、スタッフの方々に改めて感謝申し上げたいと思います。

限られた時間・環境の中で、これからも患者一人ひとりに対して、より良い外来となるように励む所存です。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

# 糖尿病内科

## 糖尿病内科科長 久保 智

これまで非常勤医(月2回)診察をしておりましたが、昨年度より常勤医となりました。しかしながらコロナ禍の船出であり、本当に嵐の中を突っ切るような感じで、舵取りは非常に大変でした。また、慣れないことも多く、患者様や医療スタッフには大変ご迷惑をおかけしました。

当科を訪れる患者さまは、インスリンを使用されている方も多く、3割近くが使用されています。合併症も進行している患者さまが多いのも特徴と思われます。

当院に来られる患者様の合併症を重症化させないことが、今後のテーマだと考え、毎日仕事に励みました。幸いなことに外来看護師やクラークをはじめとした医療スタッフのサポートがあり、高血糖の合併症で緊急搬送されてくる患者様も少なかったですが、重症低血糖で搬送される患者様もおり、低血糖の指導が不十分であったと反省しております。

糖尿病の治療は、ここ10年で目覚ましく進歩しており、新薬が毎年上市されております。インスリン加療も糖尿病の末期に使用するだけでなく、すい臓の機能が保たれている早めから導入することで、インスリン分泌の回復を手助けし、経口血糖降下薬を使用することでインスリンを離脱するというような使用の方法もあります。

患者様には、インスリン使用に抵抗を持たずに、気楽に使用していただけたらと思います。また、1型糖尿病の患者様にはインスリンポンプ療法も使用できるようになりましたので、積極的にご相談いただけたら幸いです。

最後に糖尿病は日頃の症状に乏しいため油断しがちですが、いざ合併症が出現すると大変なことが多く、日常生活の質の低下にも直結します。早めの治療開始が必要です。そのため、コロナの影響で昨年開催できなかった糖尿病教室(集団指導)や市民講座も今年は施行し、早期介入を目指したいと考えております。

# ペインクリニック内科

鹿児島大学病院 麻酔科 助教 榎畑 京

皆様こんにちは、ペインクリニックの榎畑京と申します。現在月2回月曜日にペインクリニック外来をさせていただいております。帯状疱疹後神経痛に代表される神経痛一般や、変形性腰椎症などによる腰痛など慢性的な疼痛について幅広く診療を行っております。

超音波ガイド下神経ブロック治療やレントゲン透視下神経ブロックを安全性と有効性を十分に吟味して患者様毎に必要なに応じて使い分けております。内服治療も、一般的な鎮痛薬だけでなく、鎮痛補助薬、漢方薬も使用し幅広く対応しております。より専門的な治療が必要な場合には、鹿児島大学病院麻酔科ペインクリニックと連携し治療を行っております。

長く続く慢性的な痛みは、活気ややる気を妨げ、生活の質をどんどんと落としていきますが、治療により元々の取り戻すことは十分可能です。種子島の住民の皆様が痛みにとらわれることなく生き生きとした生活を送っていただけるよう精一杯診療いたします。痛みについてお困りでしたら是非お気軽にご相談ください。

# 心療内科

鹿児島大学病院 心身医療科 心理師 福元 崇真

コロナウイルス(COVID-19)が日本で広がりはじめてから2年が経ちました。私たちの日常は大きく変わり、これまで当たり前にかけていた生活が制限され、人生の喜びや息抜きも自粛せざるを得ない状況が続いています。

私たち心療内科は、疾患部位のみに焦点を当てるのではなく、患者様の「心」、さらには「行動」や「生活」、「家族」、「職場」、「環境」など患者様を取り巻く「社会」について、診療時のお話を大切にしながら、総合的に診療させていただいています。

現在、コロナ禍により大人・子ども問わず、思ったようにストレス発散ができないことで心身ともに不調をきたす方が増えています。

このような状況だからこそ、私たち心療内科一同、皆様の心と身体の健康のため一層精進しておりますので、お悩みの方がいらっしゃいましたら、お気軽に心療内科を受診していただければと思います。

医療従事者の皆様の頑張りにはいつも大変お世話になっております。職員の方でもお悩みの方がいらっしゃいましたら、遠慮なくご相談ください。



---

看 護 部

---

## 【看護部の理念】

安全、安心、安楽な質の高い看護を提供します。

## 【基本方針】

1. 私たちは、皆様の信頼に応えられる看護を実践します。
2. 私たちは、人権を尊重した心温かな看護を実践します。

## 【教育方針】

種子島医療センター看護部理念、方針、目標を達成するために、  
看護部1人ひとりが自分の目標を明確にし、  
やりがいと達成感を味わうとともに看護職として  
成長することを目指します。

## 看護部

# 看護部長室

看護部長 戸川 英子

### 【令和3年度職員】（令和4年3月31日付）

看護部長／戸川英子

教育師長／上妻智子

副看護師長(感染管理認定看護師)／下江理沙

秘書／加世田佳子 事務／河野由華

### 【令和3年度 看護部目標】

テーマ：共育・協働

～自分たちがやりたい看護・目指す看護を実践するために～

1. 一人ひとりが持つ力を発揮し、安全安心な看護が提供できる組織作り。
2. 業務改善を進めながら、満足度の高い職場環境作りに取り組む。
3. 組織の機能拡大に対応し、病院経営に参加する。

### 【実績】

#### 1. 一人ひとりが持つ力を発揮し、安全安心な看護が提供できる組織作り(達成率70%)

①看護管理者による委員会活動の企画、運営の実践力向上に取り組む。

各看護管理者で分担を行い、委員会活動を展開したが、計画策定や決定事項の周知が徹底されない、会議への不参加者への未対応等が見られた。継続課題とする。

②感染リンクナースとリスクマネジャーへの支援を強化し、先取り対策を実践する。

新型コロナウイルス感染症対策が主となるリンク会であったが、感染管理認定看護師感染の指示のもと、副師長クラスを招集し強化を進めた。医療安全管理者によるリスクマネジャー支援は、リスクレポートからの支援の他に、部署ごとの目標設定を行い、中間評価と期末



評価を行い、部署単位での取り組みを支援できた。

### ③人材育成体制を強化し、看護師の質向上と満足度を高める。

・イメージキャラクター(ひよりちゃん)とクリニカルリーダーの手順書が完成したが、運用開始には至らず。令和4年度スタート予定。

・看護部eラーニングのキャンディリンク履修開始。部署や集合研修での研修の資料にも活用できた。

看護師履修時間 一人当たり18時間 最高履修時間 86時間(目標値24時間)

看護補助者履修時間 一人当たり 11時間 最高履修時間 52時間(目標値24時間)

・一人ひとりの目標達成度を上げるために具体化した目標設定への支援を行う。

師長副師長対象に目標管理の学習会を開催し、目標管理を半年ごとに実施。ラダー申請も視野に入れた面談を継続する。

・専門分野の看護師育成(2名以上)や院内外看護研究発表の推進(院外は2例以上)

救急看護認定看護師1名 救急看護教育課程修了者1名 特定行為研修受講者1名

鹿児島県保健看護研究学会発表1例

・リソースナースを活用した根拠ある看護実践力の強化

感染管理、がん化学療法、緩和ケア等の認定看護師と特定看護師による現場に出向いた実践指導やハイブリッド形式の院内研修会の開催が定着してきた。

## 2.業務改善を進めながら、満足度の高い職場環境作りに取り組む(達成率70%)

### ①各部署1個以上の業務改善を行う。

各部署申し送り時間の短縮、チーム編成や業務の見直しが行えた。

働く環境の改善として、としては、おしぼりのディスポ化、陽圧ロック式延長チューブの採用、配茶サーバーの設置等感染対策とパンパワー不足に対する業務負担軽減に向けての取り組みが主であった。

オンライン面会、入院備品や衣類の管理を業者介入推進等々医事や地域連携、総務課との協力により看護業務の見直しを進め、現在進行中である。

### ②安全性、公平性、優先順位を考えた計画的な年次休暇の消化(5日以上取得)等。

有給取得率:看護師67%(前年比+14.8%) 看護助手 62%(5日以上取得100%)

リフレッシュ休暇取得:100% 育児休暇取得者7名(うち男性育休取得者1名)

時間外勤務:看護師4.3時間(前年比+1.4時間) 看護助手4.6時間

離職率:看護師22.6%(前年比+13.2%)

### ③病院説明会、見学受け入れ等求人活動。

・病院説明会1回(WEB)、学校訪問1回、病院見学は中止

・WEB面接4回

・ふれあい看護体験 1名

・インターンシップ参加 9名

・県、市等行政や鹿児島県看護協会ナースセンターへの求人依頼活動継続中

## 3.組織の機能拡大に対応し、病院経営に参加する。

### ①コスト意識を持った医療機器や医材、備品管理の強化

SPDカードの紛失等による物品不足が見られる病棟があり、管理者への指導と改善に取り組んできた。運用については看護部ではなく用度管理室へのタスクシフトが必要と考えているため、次年度も改善へ取り組む。

### ②効率的、効果的な病床管理

・病院の方針に対応したコロナ感染症等対応病床の確保。

COVID-19陽性患者数に応じて内科系病棟をゾーニングや期間を決めて病棟全体での受け入れを実施した。

- ・ベッド稼働率は全体で90%以上、慢性期病棟は100%を目標値とする。  
コロナ禍とマンパワー不足で急性期病床数縮小したことで、急性期は60%前半、慢性期は90%前後で推移
- ・院内外を問わず、家族も含めた関係部署との連携を強化した入退院調整の実践。  
オンラインによる認定調査開始。
- ③病院の方針に基づいた加算取得への取り組み。
  - ・認知症ケア加算3を2へ引き上げ。

### 【振り返り】

令和3年度も重点医療機関として継続した新型コロナウイルス感染症対応がメインとなり、看護部は発熱外来、濃厚接触者検体採取、COVID-19陽性患者及び疑似症患者の受け入れと通常診療に対応しながらの1年が始まった。長引くコロナ禍にストレスが直積し例年になく退職者が相次ぎ、入職者も半数以下に留まり、マンパワーに相応した病床数へ変更、看護体制の見直しを行ってきた。看護業務の見直しも同時並行し、多職種や部門へのタスクシフトも進められた。

3月に入り、COVID-19患者数急増とともに介護度の高い患者の入院が相次ぎ、ゾーニングから病棟単位での受け入れへ方針変更。必然的に業務が繁忙となり、職員へ感染も広がりを見せ、全病棟に出勤停止の職員が存在し、院内クラスター発生となった。直ちに師長ミーティングを毎日夕方に切り替え、ICNも加わり日ごとの情報共有を図り、必要な部署へ日々応援を派遣した。他部門も看護部の要請には応えて頂き、環境整備や業務移譲、人材応援等が実施された。最終発症日から2週間を経て、44日目の収束宣言であった。

COVID-19受け入れ病棟スタッフは、粛々とフルPPEで患者ケアに入る、面会禁止下での気持ちを察した家族対応、自身の体調管理をしながら復帰してきた同僚を温かく迎え入れる態度には本当に頭が下がる思いだった。どうやって乗り越えてきたのか無我夢中だったという当該病棟師長の言葉は今でも胸が熱くなる思いである。

職員はもとより職員を支えてくださったご家族、患者さんとそのご家族、協力や激励をくださった行政、業者の方々、そして看護協会等々種子島医療センターを支えてくださった多くの方々にこの場を借りて改めて感謝申し上げたいと思います。

さて、令和4年度は新型コロナウイルス感染症対策を踏まえての診療報酬改定の年度でもあり、現状の先読みと柔軟に対応していく力が求められています。

看護部は、年間1000件を超える救急搬送や手術患者の受け入れ、退院後の生活不安者等多種多様な患者さんを見るスキルを要求されます。深刻なマンパワー不足の中でしたが、他部門の理解と協力を得ながら新人もベテランも自身の看護に責任を持ち看護チームで乗り切ってきたおかげで研修を終えたスペシャリストが現場に復帰しています。

診療看護師の着任も大きな前進です。こうしたジェネラリストとスペシャリストたちが部署を超えて集まり、離島における専門チームが始動し、看護部が大きく変容する1年になると考えます。

看護者であることを忘れずに看護師しかできないこと、看護師だからできることを追求し、子島医療センターの看護の質向上に邁進致します。今後とも看護部を宜しくお願い致します。

### 【令和4年度 看護部目標】

対象期間; 2022年4月～2023年3月

テーマ; 変容・協働

～状況の変化に柔軟に対応できるチーム力を培おう～

1.一人ひとりが持つ力を発揮し、安全安心な看護が提供できる組織作り。

①看護管理者を中心に部署や委員会活動の企画、運営の実践力向上に取り組む。

②専門チーム活動を通して、横断的な視点と看護実践能力を高める。

③研修体制の充実による看護の質向上を図る。

## 2.満足度の高い職場環境作りを強化し、人財確保につなげる。

①医師、クラーク、看護助手との役割分担を明確にしたタスクシフトタスクシェアの推進。

②一人ひとりの目標達成度が上がるために具体化した目標設定への支援を行う。

③各部署1個以上の業務改善を行う。

④安全性、公平性、優先順位を考えた計画的な年次休暇の消化(5日以上の取得)。

⑤看護部の強みをアピールした人材確保対策の強化。

## 3.組織の機能拡大に対応し、病院経営に参加する。

①診療報酬改定に基づいた基準や要件を維持する。

②効果的、安全な病床管理。

③事務部や用度管理室との連携を強化し、設備や医材備品在庫管理体制を整備する。

# 外来

外来看護師長兼部長補佐 園田 満治

【令和3年度職員】(令和4年3月31日付)

看護師長／園田満治

副看護師長／山之内信、美坂さとみ

主任／荒木敦、坂下紀子

看護師／柳希美、白尾雪子、赤木秀晃、田上俊輔、羽生秀之、山下ひとみ、鈴木龍、香取遥、大谷清美、川口文代、永田理恵、山口一江、長濱美香、中野美千代、中本利津子、高橋 望、北菌ゆかり、日高百代、安藤沙由里、永浜たか子、西田多美子



看護助手／遠藤みゆき、岡澤多真実、永井珠美、丸野真菜美、串間みのり

【令和3年度 外来看護部年間目標】

1人ひとりが知識と技術の向上に努め、安全で安心な外来看護を目指す。

①外来看護部の組織強化と改善

- ・看護師、看護助手、クラークの役割分担の明確化と協働促進。
- ・外来患者さんの継続フォローの充実。

②安全な看護サービスの提供

- ・インシデントレポート3以上の発生ゼロを目指す。
- ・インシデント発生時は、翌日の朝礼で検討会を行う。
- ・診察室、検査時の患者確認マニュアルの徹底。
- ・発熱外来の安全な運営と感染対策の強化。

③接遇の向上(挨拶・言葉使い・身だしなみ)

- ・職員間での接遇の声掛けを行い、意識付けする。
- ・クレーム事例の検討会実施。
- ・業務改善を進め生き活きと働きやすい職場環境を作る。

④人材育成に努める。

- ・個々の目標管理を行い、意欲向上を目指す。
- ・新規採用者や外来未経験者への指導の充実。
- ・職員の応援体制を整備、1人3診療科対応を目指す。
- ・部署勉強会1回/月の実施と、積極的な研修参加。

⑤働きやすい風土を目指す。

- ・時間外勤務の減少と昼休み取得へ取り組む。
- ・計画的な年次休暇の取得(前年度取得以上を目標)。
- ・業務改善を主任主体で取り組む。
- ・効率的な外来運営を目指す。

⑥確実な汎用入力に努める。診療報酬改定の対応を確実にを行う。

⑦在宅指導の充実。

- ⑧他部署と協力し、待ち時間短縮に努める。
- ⑨毎月の運営会議・スタッフ会議・クラーク会議の実施。

### 【令和3年度 外来看護部年間目標年度末評価】

1. 1人ひとりが知識と技術の向上に努め、安全で安心な外来看護を目指す。
  - ①外来看護部の組織強化と改善 達成率40%  
 コロナ対策が主となり、看護師・クラーク・看護助手の役割分担の明確化が進んでいない、来年度の外来体制変更に向けて改善を勧めている。
  - ②安全な看護サービスの提供 達成率60%  
 アクシデントはやはりみられている。大きな事故となる事項はみられないが、今後も気を引き締めていきたい。  
 コロナ対策は、スタッフの感染もなく、外来対応は問題なく出来ている。
  - ③接遇の向上(挨拶・言葉使い・身だしなみ) 達成率60%  
 一部でマスク着用や対応に関して、患者さんよりクレームあり今後も対策の強化が必要
2. 業務改善を進め生き活きと働きやすい職場環境を作る。
  - ①人材育成に努める。 達成率40%  
 Zoomの勉強会には、みんな積極的に参加している。  
 キャンディリングは研修が進んでいないので声掛けが必要。  
 クラーク新人が入り半年後には、一人で診療科を対応できるように指導を進める。
3. 働きやすい風土を目指す。 達成率50%
  - ①スタッフ減少とコロナの影響で時間外は増えている。  
 有給休暇取得は昨年度に比べ取得が遅れている。  
 効率的な外来運営を目指す。 達成率30%  
 コロナ対策が中心となり、様々な改善対策が進んでいない  
 来年度からの外来運営方法改善に向けて対策を検討している。

### 【令和4年度 外来看護部年間目標】

1. 1人ひとりが知識と技術の向上に努め、安全で安心な外来看護を目指す。
  - ①外来看護部の組織強化と改善
    - ・看護師、看護助手、クラークの役割分担の明確化と協働促進。
    - ・救急、化学療法、緩和、感染チームと協力して外来看護サービスの向上を目指す。
  - ②安全な看護サービスの提供
    - ・インシデントレポート3以上の発生ゼロを目指す。
    - ・インシデント発生時は、翌日の朝礼で検討会を行う。
    - ・診察室、検査時の患者確認マニュアルの徹底。
    - ・発熱外来の安全な運営と感染対策の強化
  - ③接遇の向上(挨拶・言葉使い・身だしなみ)
    - ・職員間での接遇の声掛けを行い、意識付けする。
    - ・クレーム事例の検討会実施。
2. 業務改善を進め生き活きと働きやすい職場環境を作る。
  - ①人材育成に努める。
    - ・個々の目標管理を行い、意欲向上を目指す。
    - ・新規採用者や外来未経験者への指導の充実。
    - ・職員の応援体制を整備、1人3診療科対応を目指す。
    - ・部署勉強会1回/月の実施と、積極的な研修参加。
    - ・クリニカルラダーの運用やキャンディリングでの学習を進める。

②働きやすい風土を目指す。

- ・時間外勤務の減少と昼休み取得へ取り組む。
- ・計画的な年次休暇の取得(前年度取得以上を目標)。
- ・業務改善を主任主体で取り組む。

③効率的な外来運営を目指す。

- ・確実な汎用入力に努める。診療報酬改定の対応を確実に行う。
- ・在宅指導の充実。
- ・他部署と協力し、待ち時間短縮に努める。
- ・毎月の運営会議・スタッフ会議・クラーク会議の実施。

### 令和3年度を振り返り

本年度は、泌尿器科中目医師と糖尿病内科久保医師を常勤に迎え、泌尿器科は週1日から週4日診療へ、糖尿病内科は週2日の非常勤医師診療が常勤対応となり、充実が図れました。救急患者受け入れでは、1,029名の搬送があり、前年度1,031名と変わらない搬入件数でした。

新型コロナ関係では、発熱外来受診患者さんの増加により、玄関前にプレハブの発熱診察室を2か所設置して対応を行いました。また、院内のクラスター発生時は、3週間外来診療を制限することとなり、島民の皆様にご迷惑をかけることになりました。来年度は、更に診療科の充実が計画されています。島民の皆様にご安心で信頼される外来診療を目指して、スタッフ一同努力したいと考えます。



# 手術室・中央材料室

室長 田上 義生

## 【令和3年度職員】

室長／田上義生                    看護副師長／本城ゆかり  
主任／大谷常樹                    看護師／平原景子  
ME主任／西 伸大                    ME／上妻優美  
透析室・手術室兼務                ME／下村和也、上妻友紀  
助手／濱本加奈、新藤美津子  
事務／田上ヒロ子  
病棟・手術室兼務看護師／羽生秀之、田上俊輔  
外来・手術室兼務看護師／川口文代(眼科専任)



## 【令和3年度 手術室・中央材料室年間目標】

〈手術室〉

- 1.スタッフの充実  
安全・安心な手術を行う  
各勉強会を定期的に行う
- 2.コスト意識を持ち適正な物品管理
- 3.各職種との連携を強化する  
各部署との情報、連絡の重要性を全員が共有する

〈中央材料室〉

- 1.物品メンテナンスを確実に行う
- 2.払い出しデータをもとに、適切な定数管理を行う

## 【目標と実績の振り返り】

令和3年度は、新型コロナウイルスの影響で、感染対策委員会の指示のもと、手術延期等ありましたが、前年度とほぼ同じ1,010件の手術実績でした。

安全・安心な手術を行う為、術前訪問を行い、スタッフ・麻酔医で情報共有を行いました。外科、整形外科、全症例の術前検討会を行い術式の確認を行いました。脳外科医師・手術室スタッフ・放射線技師でメカによる複数回の脳血管内手術の勉強会を行いました。コスト意識を高める為に、手術準備チェックリストを見直し適正材料に努めました。

1日手術件数増加に伴うオンコール入室時間は、事前の連絡にスタッフ全員で心がけスムーズな運営が出来ました。

中央材料室部門では、ローテーションで担当している滅菌組み立て担当者の責任下で物品チェックを行いました。

滅菌物の管理は、オンラインに移行しスムーズに運用でき正確な定数管理出来ました。

## 【令和4年度 手術室・中央材料室年間目標】

〈手術室〉

- 1.安心安全な手術を提供する
- 2.思いやりをもった行動をとる
- 3.マニュアルを充実させる

〈中央材料室〉

- 1.物品適切な管理の為、ラウンドを行う
- 2.滅菌技師の充実、追加増員(資格所得をめざす)

## 2階病棟(外科・脳外科・整形外科病棟)

2階病棟看護師長 小川 智浩

### 【令和3年度職員】(令和4年3月31日付)

看護師長／小川智浩

副看護師長／射場和枝

主任／鮫島昇樹、久田香澄

副主任／迫田かおり、能野明美

看護師／永井友佳、今鞍しえり、日高靖浩、中田彩

弥加、古市翔南、吉永美由希、北村綾乃、

西田ひずり、小坂めぐみ、宮里友紀子、

西端沙弥、蔵元陽子、安本響、野口眞依、

荒河貴子、羽生秀之、田上俊輔、香取遥、登ゆみ

メッセージ／沖吉絵里子

看護助手／池濱悦子、吉岡朋江、横山夢乃、永濱利恵、山口真菜恵、森勝子、牧内久美子



### 【令和3年度 2階病棟年間目標と振り返り】

#### 1、継続的な自己研鑽

- ・院内研修会については個々でWEB研修等に参加しているが、個人によりバラつきがみられた。
- ・キャンディリンクについても個人差があり、今後も定期的な声掛けが必要。
- ・病棟内勉強会は定期的実施した。

#### 2、安全・安心・安楽な病棟

- ・インシデントレポートの作成については以前よりは入力が多くなってきたが、入力には個人差がみられた。
- ・褥瘡の院内発生はおきてはいるが減少傾向。
- ・コスト意識はまだ努力が必要で破損・紛失はまだ多い。
- ・スタッフ不足もあったが、年休・リフレッシュ休暇は消化出来ている。
- ・業務前、休憩後の体温測定は自主的にする人は特定されており、意識が低いスタッフがみられた。
- ・勤務体系の変更を行っている。

#### 3、チームワークを育む

- ・病棟カンファレンスを定期的開催して、問題点も少しずつではあるが改善できている。

### 【令和4年度 2階病棟年間目標】

- 1、個々の持つ力を発揮し、安心・安全な看護提供を図る
- 2、働きやすい環境を作り、活力ある病棟構築
- 3、組織の機能に対応し、経営意識を持つ

#### 1.個々の持つ力を発揮し、安心・安全な看護提供を図る

- ①各委員会に所属し、病棟内でリーダーシップを図っていく。
- ②感染防止対策を図っていく。

- ③医療事故防止に努め、日々の業務にかかわる。
- ④勉強会への積極的な参加や、キャンディリンクを利用して自己研鑽に努める。

## 2. 働きやすい環境を作り、活力のある病棟構築

- ①計画的な年次有給休暇、リフレッシュ休暇の消化。
- ②効率的に業務を遂行し、時間外勤務の減少へ取り組む。
- ③報告・連絡・相談を確実に行う。
- ④スタッフ同士で業務を協力して行えるように、日頃からコミュニケーションを図る。

## 3. 組織の機能に対応し、経営意識を持つ

- ①コスト意識を持って、機器や備品の取り扱いに注意する。
- ②コスト漏れがおきないように、確認を強化・
- ③病床管理を意識し、効率的なベッド稼働を目指す。

## 3階西病棟(内科・眼科・小児科病棟)

3階西病棟看護師長 平園 和美

【令和3年度職員】(令和4年3月31日付)

看護師長／平園和美

副看護師長／安本由希子

主任／矢野順子、田中加奈

看護師／鈴木英恵、上妻幸枝、長瀬まゆみ、山田  
こず恵、奥村洋子、延時彩、門脇翔太、  
長澤凜太郎、古市翔南、鎌田のぞみ、安  
田英佳、宮脇正子、荒木舞、若林遥、中  
崎翔太、西久保加奈

クラーク／池下由紀

看護助手／倉橋香、三瀬祐子、岩屋かおる、河野鈴子、矢野渚、橋口りつ子、鮫島あゆみ



【令和3年度 3階西病棟年間目標と振り返り】

- 1、個々の持つ力を最大限に発揮し、安心・安全な看護の提供を図っていく
- 2、働きやすい環境を整備し、活力ある病棟の構築
- 3、安定した病床管理を実践し、コスト意識を持ち経営に参画する

1、個々の持つ力を最大限に発揮し、安心・安全な看護の提供を図っていく

- ①一人1委員会以上に所属し、病棟内でのリーダーシップを図っていく
  - ・委員会には全員所属しているが自分の委員会を知らないスタッフもいた
  - ・委員会での決定事項等を病棟内に置いて周知がされていないことが多い
- ②医療事故ゼロを目標に掲げ、日々の業務に関わっていく
  - ・インシデント発生報告も多かったがアクシデントⅡb以上の報告はなかった内服に関するインシデント件数が多い
- ③接遇の向上を図る
  - ・言葉遣いや態度に関するご意見(苦情)が1件あった
- ④勉強会・研修会に積極的に参加し、自己研鑽に努める
  - ・必須以外の研修会への参加が少ない
  - ・キャンディリンクも導入しているが積極的に学んでいるスタッフとしていないスタッフの差が大きい

2、働きやすい環境を整備し、活力ある病棟の構築

- ①計画的な、年次有給休暇、リフレッシュ休暇の消化
  - ・勤務に支障のない休暇の取得を行っている
  - ・年休も5日消化しているスタッフが100%
  - ・落ちついている日は1～2時間の年休消化をしている
- ②効率的な業務を行い、時間外勤務の減少へ取り組む
  - ・スタッフ間も協力的で声をかけあいながら業務している
  - ・スタッフ数の減に伴い、遅番体制を取ることで日勤勤務者の時間外勤務短縮に少しは繋

がっているように思う

- ③相談しやすい環境づくりを行い、離職率減少に取り組む
  - ・スタッフ間で声を掛け合っている
  - ・退職希望のスタッフもいるが時期を延長することへはつなげた
- ④孤立者を出さず、皆で協力して業務が行えるよう取り組む
  - ・新人さんや中途採用者へはチューター、アドバイザーとその日に担当者を決めて孤立させないようにしている

### 3、安定した病床管理を実践し、コスト意識を持ち経営に参画する

- ①実践した業務のコスト漏れがおきないように、見直し・確認の徹底の強化
  - ・常備チェック等で薬剤が不足する時はメール等で呼びかけている
  - ・オーダーの未実施が時々みられるが処置等の汎用の未実施はみられなかった
- ②医材、備品のコスト意識を持ち、破損・紛失の減少
  - ・前半は離床センサー、ナースコールの破損が多かった
  - ・故障してもそのままにしていることも多い
- ③病床管理の意識を持ち、ベッド稼働率95%以上を目指す
  - ・コロナ・疑似症対応病床もあり稼働率が下がっている
  - ・入院患者は積極的に受け入れをしている

#### 【令和4年度 3階西病棟年間目標】

### 1、個々の持つ力を最大限に発揮し、安心・安全な看護ができる

- ①委員会活動に参加し部署内で情報共有ができる
- ②3b以上のアクシデントを起こさない
- ③感染対策を徹底する
  - ・手指消毒液使用 1本以上/月
- ④接遇の向上を図る
  - ・苦情、クレーム0を目指す
- ⑤勉強会・研修会に積極的に参加し自己研鑽に努める
  - ・医療安全2回、感染2回を含め15回以上研修会に参加する
  - ・キャンディリンクの習得

### 2、働きやすい環境を整備し活力ある病棟の構築

- ①計画的な年次有給休暇、リフレッシュ休暇の消化
- ②効率的な業務を行い時間外勤務の減少へ取り組む
  - 申し送りの廃止に取り組む
- ③相談しやすい環境づくりを行い、離職率減少に取り組む
- ④孤立者を出さず、皆で協力して業務が行えるよう取り組む

### 3、安定した病床管理を実践し、コスト意識を持ち経営に参画する

- ①病院の方針に基づいた適正な加算の取得
- ②コスト意識を持ち、物品を大切に使う(破損、紛失の減少)
- ③ベッド稼働率(90%以上)を意識した病床管理

## 3階東病棟(地域包括ケア病棟)

3階東病棟看護師長 瀬古 まゆみ

### 【令和3年度職員】(令和4年3月31日付)

看護師長／瀬古まゆみ

副看護師長／丸野嘉行

看護主任／小山田恵

看護副主任／牛野文泰

看護師／鷺尾志保、川下まゆみ、桑原明日香、古田雄大、片浦信子、山之内英子、中山君代、飯田ゆりえ、橋本さおり、武田まゆみ、木藤洋子  
看護助手／日高美代子、原田鈴子、大山晴美、磯川ひとみ、小脇尚代、今平謙一、二宮順子、森勝子、三宅京美



### 【令和3年度 3階東病棟看護目標】

対象期間：2021年4月～2022年3月

#### 1. 個々の持つ力を発揮し、安全安心な看護が提供できる

- ①開催される委員会には概ね参加しており、伝達も行った。 達成率90%
- ②手指消毒の励行を行っていたが、目標回数には到達せず。新型コロナウイルスの院内発生が起これ、改めて伝搬防止の大切さ・難しさを痛感した。感染対策の関心も高まり、ガウン使用などの見直しも行った。 達成率70%
- ③プライマリナーシングを1年間継続できた。転入時カンファレンスを始めてから、担当患者を意識できるようになってきた。 達成率80%
- ④勉強会の参加は必須のものは参加できている。キャンディリンクの履修は徐々に低下してきているので定期的な声掛けが必要。 達成率90%

#### 2. 業務改善を行い働きやすい環境を整え、活気のある職場を目指す

- ①年次有給休暇・リフレッシュ休暇の消化を均等に行った。 達成率100%
- ②目標設定は個人に合ったものではあったが、具体性に欠けるものが多く、次年度の課題である。評価時に面接を行った。 達成率60%
- ③報告・連絡・相談は概ね行えた。多職種・他部署との伝達不足が度々起こっており、その都度分析と対策を話し合った。 達成率80%
- ④コミュニケーションを図り活気のある意見交換・カンファレンスを行うことができた。特にコロナウイルスによる人員不足に陥った際にはお互いを気遣いながら協力して業務を遂行できた。 達成率100%

#### 3. 地域包括ケア病棟の基準を厳守し、安定した病床管理の実践を行い、コスト意識を持ち病院経営に参加する

- ①地域連携室・リハビリスタッフとの情報交換・意見交換が積極的に行えた。 達成率100%
- ②地域包括ケア病棟入院料1における実績は、3月を除いて100%達成できている。実績目標値が引

き上げられたものについて今後対策を行っていく。達成率100%

③ZERO Supply 入力者を日責だけにしぼったことで、物品使用時・補充時の確認が細かくできるようになった。達成率100%

④常に満床を目標に、1~2床の余裕を持つことで、急性期病棟からのスムーズな受け入れを行い、ベッドコントロールがスムーズにできた。達成率100%

### 【令和4年度 3階東病棟年間目標】

テーマ:相互成長・相互協力

- 1、一人ひとりが成長意欲を持ち、看護力を高めることができる
- 2、変化する環境・状況に柔軟に対応できる
- 3、ワークバランスを整え、モチベーションの向上・持続につなげる

### 業務について

3階東病棟は地域包括ケア病床を42床持ち、主に急性期治療を脱した患者様の調整やリハビリ継続のための期間調整を行っています。当院では地域包括ケア病棟入院料1をとっていますが、今年度の診療報酬改定により算定要綱が一部厳しいものになってきています。

在宅復帰率・訪問診療実績・入院(緊急入院)受入実績などが上げられ、地域包括ケア病床に多様な利用方法が期待されていることがわかります。急性期病床のひっ迫に伴い病状が完全に安定していない状態の患者様でも受け入れる必要があり、看護必要度重症割合の引き上げなど、入院患者様の病態が重症化してきている現実があります。

更に3月には新型コロナウイルスの院内クラスターも発生し、患者様の生活も守りつつ対応に追われる日々でした。このような厳しい業務の中で、戸惑いながらも助け合い1年間乗り越えることが出来ました。これからも相互成長・相互協力を念頭に患者様の入院生活が快適であるように、より良い退院の形を探し出せるように、スタッフ一丸となって援助を行っていききたいと思います。

# 4階病棟(回復期リハビリテーション病棟)

4階病棟看護師長 平山 靖子

【令和3年度職員】(令和4年3月31日付)

看護師長／平山靖子

副看護師長／大中沙織

主任／能野信枝

副主任／橋口みゆき

看護師／鮫島幸代、瑞澤明美、関志穂、羽嶋民子、  
園山愛美、石井智子、土手須由、宮原和子、  
上妻てるみ、赤木みどり、長瀬りえ、  
武田亜津美

看護助手／原崎清美、山下育代、坂下加奈、南香

織、鮫島和奏、笹川美知江、山口真希、井上律子、小井土紗希、上妻さゆみ



## 【令和3年度 4階病棟年間目標と振り返り】

多職種で連携し日常生活に基づいた安全で効果的なりハビリテーションを提供し、早期退院に繋げることができる

### 1.退院後を見据えた指導の充実

- ①医師・看護スタッフ・リハビリスタッフ、医療相談員(MSW)との連携を図り、情報を共有し同じ目標に向かって指導ができる→まだリハビリスタッフに頼っている面が多く、看護が生かされていない。
- ②退院後の生活や環境に最も適したりハビリテーション・看護・介護ケアを提供する→退院後の生活や環境に合わせて患者さんとかかわることが出来てきた。  
達成率 80%

### 2.医療事故防止

- ①医療事故ゼロを目指す  
毎日カンファレンスを行い、病棟全体で情報共有する。  
アクシデント発生24時間以内に再発防止対策を立案する→医療事故報告、再発防止対策を立てることはできたがゼロにはできなかった。
- ②定期的に急変時の対応シミュレーションを実施する→定期的予定として実施することはできなかった。
- ③回復期リハビリテーション病棟患者に起こりやすい合併症  
(誤嚥性肺炎・尿路感染症・転倒による外傷・褥瘡・腸閉塞)を起こさないよう全身管理を行う→合併症を起こさないように心掛けていた。起きてしまっても、早急に対応出来ていた。
- ④感染対策の徹底→感染対策の徹底で、コロナ感染拡大を起こすことなく対応出来た。  
達成率 80%

### 3.業務改善

- ①働きやすい病棟にするための意見交換を定期的に行い、改善に繋げる→その都度、意見交換から業務改善出来ているが、まだまだ改善の余地がある。
- ②勉強会を月1回以上実施→できないこともあった。



- ③身だしなみ、丁寧な言葉遣い、真摯な姿勢を心がけ、クレームゼロを目指す→クレームゼロではなかった。
- ④自己研鑽のためにWeb勉強会やキャンディリンクを活用→個人差があった。自己研鑽ではあるが声掛け継続する必要あり。  
達成率 90%

### 【令和4年度 4階病棟目標】

日常生活に基づいた安全・安心で効果的なりハビリテーション看護を提供し、早期退院に繋げることができる

#### 1.退院後を見据えた看護・指導の充実

- ①医師・看護スタッフ・リハビリスタッフ、医療相談員(MSW)との連携を図り、情報を共有し同じ目標に向かって看護・指導ができる
- ②退院後の生活や環境に最も適したりハビリテーション・看護・介護ケアを提供する

#### 2.医療事故防止

- ①医療事故ゼロを目指す  
カンファレンスを行い、病棟全体で情報共有する。  
アクシデント発生24時間以内に再発防止対策を立案する
- ②定期的に急変時の対応シミュレーションを実施する
- ③回復期リハビリテーション病棟患者に起こりやすい合併症(誤嚥性肺炎・尿路感染症・転倒による外傷・褥瘡・腸閉塞)を起こさないよう全身管理を行う
- ④感染対策の徹底

#### 3.業務改善

- ①働きやすい病棟にするための意見交換を定期的に行い、改善に繋げる
- ②勉強会を月1回以上実施
- ③身だしなみ、丁寧な言葉遣い、真摯な姿勢を心がけ、クレームゼロを目指す
- ④自己研鑽のためにWeb勉強会やキャンディリンクを活用

#### 業務について

リハビリテーション治療を目的として入院された方で、治療基準にあてはまる方に必要な期間、集中的にリハビリ訓練を受けていただきます。機能回復のリハビリテーション治療だけでなく寝たきり防止と家庭復帰を目指した生活動作訓練に注目し、医師・リハビリスタッフ・看護師・介護士・ソーシャルワーカーが共同してリハビリテーション計画書を作成し、それに沿って訓練・評価・訓練計画見直しを繰り返し行いながら、その方にあたりハビリテーションを提供していきます。

# 透析室

透析室看護師長 西川 友美子

【令和3年度職員】(令和4年3月31日付)

看護師長／西川友美子

看護主任／門脇輝尚

看護師／中原美智子、犀川久子、中脇妙子、江口貴子、鮫島理枝子、日高貴久美、長野香奈  
ケアワーカー／上田まり子、鮫島秀子、本炭ひとみ



【令和3年度 透析室年間目標】

- 1.安全・安心で質の高い透析療法を目指し、緊急時災害時対応を習得する。
- 2.新型コロナウイルス感染防止に向けてスタッフ一丸となって努力し、患者・スタッフの不安に寄り添う。
- 3.他職種と連携し患者一人ひとりのQOLの向上に向き合い、個々に合わせた看護を実践する。

【実績】(令和3年度3月末日現在)

登録患者総数64名(毎月変動あり)

2021年度血液透析実績 9,718件・CHDF実績 2件

【年間目標の振り返り】

医療事故防止への取り組みに関して

感染と医療事故に関する研修会に全員100%参加できたので、参加意欲を維持できるよう情報発信していきます。

インシデントは、ダイアライザー間違い1件、透析中の自己抜針2件、コンソールの除水量設定ミス1件、注射オーダー漏れ+注射未実施に翌日気づいた事例1件、ヘパリン製剤間違い1件、輸血バーコード実施漏れ1件でした。院内メールやノートの活用による改善策の周知徹底により、Lv2以上のインシデントはありませんでしたが、他部署と比較してベテランスタッフが多く、慣れによる無意識な緊張感の薄れから確認作業を怠り、間違いに繋がりがややすいと感じるので、今年度は特に指差し呼称とダブルチェックに力を入れていきたいと思えます。

新型コロナウイルス感染防止に向けた取り組みについては、随時、感染管理看護師と病院長主導のもと、病院の方針、フローに従い対応できていたので、引き続き実施していきます。

透析看護実践能力の向上に関して

個々の患者様への指導の充実のために、透析室経験年数による指導スキルの差をなくし、誰でも同じ内容で適切な時期に指導ができるようにする必要がありますと感じています。現在活用している資料や文書内容を更新し、来年度までにクリニカルパス形式で動けるようにしていきます。

スタッフの自己研鑽に対する取り組みとして、院外研修参加率は振るわなかったものの、キャンディリンク履修が全体的に好成績でしたので、このモチベーションが継続できるようにしたいです。

透析看護実践能力の向上に関して

透析中避難する患者対応についての手順確認とスタッフへの周知にとどまり、実践形式の訓

練ができなかったため、今年度は訓練実施計画を立てて実施します。

また、新しい災害マニュアルの情報更新が不十分でしたので、腎友会メンバーの緊急連絡網作成、緊急避難のフロー作成と掲示を腎友会会長と連携し、常時最新情報に更新していきます。

### 接遇の充実・職場環境の改善

清潔感ある身だしなみを意識し、私語は最小限で業務できていました。言葉遣いについては、患者との良好な関係性を保つために、『親しき仲にも礼儀あり』を念頭に置き、常に細心の注意を払い、患者目線の配慮が自然にできるようにしていきたいです。

体調不良者の勤務調整で、ギリギリの人数での勤務が余儀なくされることがありますが、通常は安全に業務できるシフトが組んでいました。今年度はスタッフが-1になり、実習が始まる学生スタッフが在籍している状況ですが、創意工夫しながら安全に業務できる環境づくりに取り組んでいきたいです。

穿刺ミス減少対策として、iVisz air使用しエコー下穿刺の導入を開始しました。現状では、エコー操作を熟知していないうちに穿刺業務に導入すると時間に追われることになるため、まずはシャント診断で用いるようにして、エコー画像や機器にスタッフが慣れていけるよう積極的に使用していきます。

### 【令和4年度 透析室年間目標】

1. 安全・安心で質の高い透析療法と看護を提供する。
2. 看護スタッフが不十分な状況下を想定した働きやすい勤務体制を構築する。
3. 一人ひとりがコスト意識を持ち、機器・備品を大切に扱い、無駄のない医材備品在庫管理ができる。

# 外来化学療法室

がん化学療法看護認定看護師 山之内 信

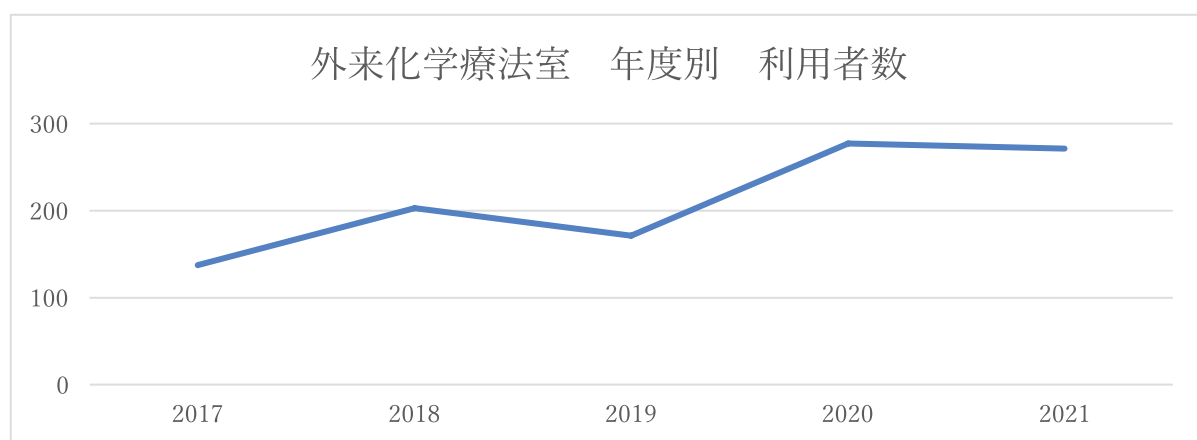
【令和3年度職員】(令和4年3月31日付)

責任者:がん化学療法看護認定看護師/山之内 信  
看護師/坂下 紀子

【令和3年度 外来化学療法室年間目標】

安全・安心ながん薬物療法を提供する

【実績】



外来化学療法室 ベッド3床

【目標と実績の振り返り】

外来化学療法室を利用する患者数は年々増加する傾向にある。ベッド回転率を上げるために業務の効率化を図った。

【令和4年度 外来化学療法室年間目標】

- ・外来化学療法の基本・手順の作成と見直しを行う
- ・各部門と連携し、ケアの質保証と医療安全に努める

業務について

本年度はがんに関する認定看護師を中心に「がん看護外来」の立ち上げを行い、がん薬物療法における支持療法や心理的支援に力を入れていきたい。

# 救急チーム

4階病棟看護主任・救急チーム長・救急看護認定看護師 鈴木 龍

病院長/高尾尊身

救急チーム科長:脳神経外科部長/駒柵宗一郎

救急チーム医長:脳神経外科医師/山岸正之

救急チーム長:4階病棟看護主任/鈴木龍(救急看護認定看護師)

救急副チーム長:副看護部長/竹之内卓(診療看護師)

救急副チーム長:外来・看護部長補佐/園田満治

救急副チーム長:2階病棟/香取遥(救急看護認定看護師教育課程終了者)

看護師:

看護部長/戸川英子 教育師長/上妻智子 2階病棟看護師長/小川智浩(特定行為看護師)

2階病棟副看護師長/射場和枝 2階病棟看護主任/鮫島昇樹 2階病棟看護師/羽生秀之、

田上俊輔、古市翔南、日高靖浩、今鞍しえり 3階西病棟看護師長/平園和美

3階西病棟副看護師長/安本由希子・美坂さとみ 3階西病棟看護主任/田中加奈

3階西病棟看護師/山田こず恵、鈴木英恵、矢野順子、鎌田のぞ美、安田英佳、赤木秀晃、延時彩、

門脇将太、長澤凜太郎 3階東病棟看護師長/瀬古まゆみ

3階東病棟副看護師長/丸野嘉行(緩和ケア認定看護師・特定行為看護師)

3階東病棟看護師/古田雄大、安本響 4階病棟看護師長/平山靖子

4階病棟副看護師長/大中沙織 4階病棟看護主任/能野信枝 4階病棟看護副主任/橋口みゆき

4階病棟看護師/赤木みどり 外来副看護師長/山之内信(がん化学療法看護認定看護師)

外来看護主任/荒木敦、坂下紀子 外来看護師/中野美千代、山口一江、山下ひとみ、川口文代、

西田多美子、白尾雪子、永田理恵、長濱美香、柳希美 透析室看護師長/西川友美子

臨床工学技士:

室長/芝秀樹 主任/細山田重樹 副主任/西伸大 臨床工学技士/上妻友紀、上妻優美、下村和也

理学療法士・作業療法士:

リハビリテーション部部长/早川亜津子(理学療法士) 副室長/濱添信人(作業療法士)

主任/山口純平(理学療法士) 副主任/小川哲哉(理学療法士) 理学療法士/坂ノ上兼一

クラーク:

室長/榎本祥恵 主任/日高明美・池下由紀 クラーク/園田由美子、峯下千代子、阿世知修子、

中野唯、武田まゆみ、中脇ルミ、柳莉乃

当院は、種子島で唯一の救急告知病院であり、年間約1,000件の救急搬送患者の対応をおこなっています。また、特殊あるいは重篤な症例に関しては、ドクターヘリ搬送時の連絡調整など、幅広く活動しています。

種子島の医療を支える最後の砦である当院では、救急患者により迅速かつ適切な対応ができることを目的に、令和4年度より救急チームが発足しました。医師、看護師、コメディカルと連携しマニュアルの作成や勉強会の開催など、知識・技術の向上に努めています。

私たちは、患者様、ご家族様に適切な医療、思いやりのあるケアを提供し、信頼される病院、安心して生活ができる種子島を、病院全体のスタッフと力を合わせて目指していきたいと考えています。

# クラーク室

室長 榎本 祥恵

## 【令和3年度職員】(令和4年3月31日付)

室長／榎本祥恵

外来主任／日高明美

入院主任／池下由紀

クラーク／園田由美子、峯下千代子、中野唯、阿世知修子、濱元桃子、縄迫愛麗、柳莉乃、武田まゆみ、折口ゆかり、恒吉朝代、中脇ルミ、酒井弘衣、小倉由理子、曾根美紀、上妻希

## 【令和3年度 クラーク室年間目標】

知識と技術の向上に努め、活気のある働きやすい職場環境づくり

### 【実績】

担当診療科

内科・循環器・外科・小児科・整形外科・脳神経外科・耳鼻咽喉科・皮膚科・泌尿器科・眼科・心療内科・消化器内科・呼吸器内科・神経内科・糖尿病内科・腎臓内科

- 診療記録への代行入力
  - 電子カルテシステム入力(検査オーダー、診察予約など)
  - 診断書などの文書作成補助 総件数:1,787件
  - 主治医意見書の作成
  - 医療上の判断が必要でない電話対応
- ※医師の指示のもと行っております。

資格取得:ドクターズクラーク 2名(榎本祥恵、中脇ルミ)

医師事務作業補助者として、主に医師業務の中の事務的などところを補助しています。診療では代行入力、診断書の作成など少しでも医師の業務削減につながっています。

### 【目標と実績の振り返り】

今年度は、新入職員3名が仲間入りし、若さもあり活気あふれた職場になりました。常勤の新人さんには、「ドクターズクラーク」の資格取得を目指し、32時間研修と合わせて教育・指導しています。

当院では、初めて「ドクターズクラーク」の資格を2名取得することが出来ました。今後も他スタッフにも積極的に挑戦して頂き、個人のスキルアップを目指していきたいと思えます。

クラーク会での勉強会を行いながら、なるべく業務も分担できるよう心掛けをしました。診療科の特性によって業務内容が変化することもあるため医師とのコミュニケーションも重要であり、診察がスムーズに行えるよう取り組みました。

計画的な年次休暇の取得を、なるべく業務に支障がでないように勤務作成を行いました。

### 【令和4年度 クラーク室年間目標】

- ・知識と技術の向上に努め、活気のある働きやすい職場環境づくり
- ・効率的な外来運営を目指す。

### 業務について

月1回のクラーク会議での勉強会や情報交換等行っております。

新人教育として入職時に32時間院内研修、「ドクターズクラーク」資格取得に向け院外研修への参加も行っております。

---

# 診療支援部

---

## 診療支援部

## 薬剤室

副主任 谷 純一

薬剤師主任／渡辺 祥馬、濱口 匠  
 薬剤師副主任／谷 純一  
 薬剤師／田中 真奈美  
 調剤助手／日高 清美、横山 ゆきえ、  
 山内 良子、東 麻美



## 【令和3年度 薬剤室年間目標】

1. チーム医療に貢献する
2. 人材育成に力を入れる
3. 適切な医薬品管理を行う

## 【行動目標】

- ①服薬指導件数を月110件以上算定できる体制作りを目指す。
- ②医薬品の適正使用が推進するよう努める。
- ③最新の医薬品情報を説明会やDIニュースを通じて提供する。
- ④院内・外研修を通じ、地域医療に貢献する人材育成に寄与する。
- ⑤学会、研修会への積極的な参加と院内への情報還元を努める。
- ⑥後発医薬品使用体制加算2を維持できる環境作りに努める。
- ⑦薬剤の破損や廃棄を削減できる環境作りに努める。
- ⑧同効薬の整理統合性を通じ、採用薬品数の適正化に努める。

## 【実績】

- ①服薬指導件数:令和3年度の服薬指導件数は1,223件。月平均101件と達成には至らなかった。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	164	144	124	127	88	84	110	106	90	85	79	22	1,223

- ②令和3年度疑義照会件数及び処方変更率

内服:585件(変更率=90.1%)注射:217件(変更率=74.6%)

- ③医薬品情報提供

・DIニュースは計8回発行し、院内への医薬品情報提供を行った。

・医薬品説明会はWebによる説明会の案内や院内でのWebによる説明会を行った。

WEB医薬品説明会:ビムパット®、デュオドーパ®、ステララ®、エンレスト®、フォシーガ®、ラスビック®、ダーブロック®、ツイミーグ®、ルムジェブ®、ボルヒール®、ベクルリー®、ビレーズトリエアロスフェイア®、ジョイクル®、ウパシタ®

- ④人材育成…各委員会での勉強会や他職種への勉強会で講師を務めるなどを実施した。

(例)緩和ケア委員会e-learning 看護師向け鎮痛剤関連勉強会

- ⑤自己研鑽・院内還元

薬剤師個人で、主にWeb研修会等へ参加し、各々の領域で院内へ還元を図った。



⑥後発品使用体制加算2の環境維持(後発品置換率80%以上、カットオフ値50%以上)

⑦薬剤の破損・廃棄について

総額では、522,716円(前年度-97,916円)で改善がみられた。

⑧採用薬数の適正化について

新規薬剤採用の原則「1増1減」を守り、行えた。

新規採用薬数:20剤 採用中止薬剤:27剤

### 【目標と実績の振り返り】

服薬指導件数以外の項目についてはおおよそ年度目標を達成できたと考える。人員減少があり、各部員が抱える仕事量が増えたことで、服薬指導へ費やす時間が限られてしまった事が原因だと考察される。人員確保のためのリクルート活動、SNS等を利用した求人活動を今後は検討していくことが必要と思われる。

### 【令和4年度 薬剤室年間目標】

1. 患者教育・職員教育を通じ、医薬品の適正使用が推進されるよう努める
2. 最新の医薬品情報が現場へ還元されるよう、医薬品情報提供に努める
3. 後発医薬品の使用促進を推進し、後発品使用体制加算2の維持を目標とする
4. 医薬品の期限切れや破損を削減できるよう働きかける
5. 採用薬の適切な選定を行い、効率的な薬物治療の提案ができる環境を整える

### 業務について

薬剤部の業務は、「医薬品適正使用」、「最適な薬物療法の提案」、「医療の安全確保」を前提として成り立っている。多様化する医療・新しい知見を常に自ら勉強し、患者・医療スタッフへの還元を行うことがこれらを可能にしているといっても過言ではない。人員不足やそれによる業務多忙など多くの障壁があるが、薬剤師の使命を忘れずに今年度も業務に邁進する必要がある。

# 中央画像診断室

室長 川畑 幹成

室長／川畑 幹成

副主任／井上 史央里、桑原 大輔

診療放射線技師／田上 春雄、田上 直生、

上浦 大生、日高 みなみ、上山 裕也

助手／中河 さつき



## 【令和3年度 中央画像診断室年間目標と評価】

### 目標① 医療放射線安全管理による当院指針の再確認と運用の確立 担当：川畑・桑原

2020年に策定した指針について運用がなされて

いるか再確認をし、放射線安全管理委員会を設置したが活動が少ないことが分かった。

法改定以前もDRL(診断参考レベル)の比較評価や改善をおこなってきたが、個人レベルで行っていたため放射線安全管理委員会において教育等も含め行うこととした。

放射線を使用する技師として各検査のDRL(診断参考レベル)等の指標について理解し評価改善管理ができる人材育成が課題である。

### 目標②日本の診断参考レベル(JapanDRLs2020)公開による検証と見直し

(一般撮影検査編)

※胸部正面撮影におけるCu付加フィルタを用いた画質検証と被ばく低減 担当：川畑

※腰椎撮影の標準撮影条件の最適化 担当：田上(直)・川畑

※胸椎撮影の標準撮影条件の最適化 担当：田上(直)・川畑

(CT検査編)

※成人腹部CTの基本設定SDの最適化 担当：川畑

※成人頭部単純ヘリカルCTのDRL2020公開による再計算 担当：川畑

※成人頭部ヘリカルCTのProtocolの適正化について 担当：川畑

※15歳以下腹部領域CTにおける単純・造影CTの再考 担当：川畑・桑原・上浦

※小児頭部ヘリカルCTの年齢区分の改訂 担当：川畑

※JapanDRL2020公開による掲示物の変更 担当：川畑

※冠動脈CTの設定SDの変更について 担当：川畑

※診断参考レベルの設定のないProtocolの調査(・副鼻腔・側頭部・頸部) 担当：川畑

※大動脈CTAの設定SD等の変更 担当：川畑

### 目標③ 医療安全管理の体制強化 担当：桑原・川畑

※管理体制の組織化と責任者の明確化をはかり、定期的に委員会を開催することとした。

※部門内医療安全目標として『指さし呼称の徹底』を掲げ定着化により、安易なミスがかなり低減してきている。

※MRI安全対策の運用の見直しを行った。

**目標④ 部門内マニュアル(規定書)等の点検・見直し**

- ※個人被ばく線量測定マニュアル 井上・川畑
- ※放射線従事者に対する健康診断マニュアル 井上・川畑
- ※装置及びシステム時刻管理マニュアル 田上(直)
- ※CT装置始業・終了点検マニュアル 川畑
- ※災害時ポータブル撮影マニュアル 川畑

**【令和4年度 中央画像診断室年間目標】**

- ①日本の診断参考レベル(JapanDRLs2020)公開による検証と見直し
- ②医療安全管理の体制強化
- ③部門内マニュアル(規定書)等の点検・見直し
- ④MRIプロトコル及び撮像パラメータの最適化

## 中央検査室

室長 遠藤 禎幸

室長／遠藤 禎幸

臨床検査技師／宮里 浩一、遠藤 友加里、

高田 忠雄、河野 和也

非常勤技師／荒井 伸代

検査助手／鮫島 由紀

**【令和3年度 中央検査室年間目標】**

- ・技師の増員
- ・感染防止の徹底
- ・接遇向上

**【実績】**

ルーチン検査以外にも、コロナPCR検査も導入し、院内感染防止に努めた。

**【目標と実績の振り返り】**

技師の増員は達成できなかったが、マスク着用や手指消毒などの感染防止対策は徹底できた。接遇向上としては、電話対応やすれ違い時の挨拶をしっかりとできていて良かったと思う。

**【令和4年度 中央検査室年間目標】**

- ・技師の増員
- ・重大なアクシデント事案を起こさない

**総括**

検査室としては、コロナ対応などで多忙な一年だった。忙しい中で互いに協力し合い、また他部署とも連携をとって乗り越えることが出来た。今後ともお互いを思いやって行動することを重視し、業務を全うしていきたい。

# 臨床工学室

室長 芝 英樹

臨床工学技士室長／芝 英樹  
 臨床工学技士主任／細山田 重樹  
 臨床工学技士副主任／西 伸大  
 臨床工学技士／上妻 友紀、上妻 優美、  
 下村 和也、熊野 朋秋



臨床工学室は7名の臨床工学技士(以下ME)で構成され手術室、透析室、医療機器中央管理室を中心に業務に取り組んでいます。

## 【令和3年度 臨床工学室年間目標】

医療機器の管理、点検を通し安全な医療を提供する。  
 環境整備に努め作業効率アップに取り組む

## 【手術室業務実績】

手術関連機器の点検、準備、操作、手術中の立ち合い、定期点検(外部委託あり)、機械出し  
 <実績>

- ・心臓カテーテル検査機器操作・・・41件
- ・経皮的冠動脈形成術の血管内超音波(IVUS)操作・解析・・・9件
- ・ペースメーカー植え込み、交換、ペーシングの機器操作・・・17件
- ・体外ペースメーカー・・・5件
- ・機械出し・・・主に整形手術に入室

## 【透析室業務実績】

透析関連機器の保守点検・修理、透析液・水質管理、透析効率評価など  
 <実績>

血液透析

- ・IHDF導入・・・今年度対応機種を3台導入し16名に実施中
- ・OHDF・・・1名に実施中

シャント管理

- ・経皮的血管拡張術(P T A)・・・28件

急性血液浄化

- ・持続的血液濾過透析(CHDF)・・・24件
- ・血液吸着(DHP)薬物吸着・・・8件

その他

- ・腹水濾過濃縮再静注法(CART)・・・14件

**【医療機器中央管理室業務実績】**

修理対応・メンテナンス・機器管理・保守点検(一部外部委託あり)

<実績>

- ・院内医療機器の修理・故障への対応・・・102件
  - ・中央管理機器の始業点検・・・1,925件
  - ・医療ガス室、液体酸素装置の日常点検
- 中央管理室内で管理している機器
- ・人工呼吸器 15台 ・ネイザルハイフロー 1台 ・輸液ポンプ 47台
  - ・シリンジポンプ 33台 ・経腸栄養ポンプ 2台 ・低圧持続吸引器 5台
  - ・その他 20台 合計 123台

ME実施保守点検機器と使用中管理機器

- ・人工呼吸器13台、除細動器2台、輸液・シリンジポンプ80台の定期点検実施
- ・人工呼吸器、I A B P 装置使用患者のラウンド実施

高気圧酸素治療実績

- ・高気圧酸素治療実施・・・127件

**【目標と実績の振り返り】**

今年も医療機器の始業点検、使用中点検、終業点検、定期点検を実施し安全な医療を提供できた事に安堵しております。

反省点としてはスタッフに機器使用法で戸惑う声も聞かれ説明不足であった事は改善しなくてはなりません。操作者の熟練度を上げる事が医療事故防止に重要であり、機械の不具合やいつもと違うと察する事で事故の未然防止ができます。

次年度も安全な医療が行える様ME一丸となり貢献して行きたいと思っております。

**【令和4年度 臨床工学室年間目標】**

医療機器の管理、点検を通し安全な医療を提供する。

医療機器操作のスタッフ教育を充実させる。

# 栄養管理室

室長 渡邊 里美

〈病院〉

管理栄養士／渡邊 里美、馬場 陽葉理

〈株式会社LEOC(給食委託会社)〉

管理栄養士／堀 綾乃

栄養士／米山 わかな、國分 沙彩

調理師／濱川 スミ子、濱松 忍、錨 通子、

植田 加奈子、鳥里 寿子、上堂園 政和、

國浦 郁代、田中 初成、吉田 倅輝

調理員／船本 育枝、前園 秀一、岩崎 哲郎、

森 飛鳥、長野 育子、鳥里 朱美、眞方 るみ子、朝田 さおり

洗浄／川野 由美子、井本 由紀子



## 【令和3年度 栄養管理室年間目標と評価】

### ●医療事故の防止に努める 達成度80%

- ・アクシデントの発生はなかった。
- ・インシデント発生後には必ずレポート作成を行い振り返りと対策を立て情報共有ができた。ただ、レポート作成に消極的な委託職員がいることから当院のeラーニングの受講により理解を深めてもらう取り組みを行った。
- ・食物アレルギーは、ワードパレットを作成し、聞き取り内容の統一とカルテ入力の仕組みを作り標準化を図ることができた。しかし、他の関係部署に対する周知は難しかった。

### ●業務改善を図る 達成度70%

- ・多職種との連携強化(回診や委員会への積極的な参加)は他の業務の都合で毎回参加ができないこともあった。
- ・栄養指導件数の増加のため、外来では栄養士を配置して栄養指導の提案を行った。また入院中は食種変更と栄養指導の提案を行うことで昨年度より606件増加できた。ただ、感染予防の影響で栄養指導を制限した時期があり、年度後半は件数の伸びに影響が出た。

### ●食器の破損を減らす 達成度80%

- ・随時、食器類の破損状況の確認と改善すべき点を検討し、部署内で周知を図った。
- ・破損金額は昨年より減少している。
- ・随時、危険な取り扱いをしている場合は指摘をして改善を図っている。

## 【主な取り組み・研修報告】

### 5月

- ・栄養管理委員会で食事調査報告
- ・静脈経腸栄養(TNT-D)管理栄養士スキルアップセミナー受講

### 8月

- ・栄養管理委員会で食事調査報告

### 9月・11月

- ・栄養サポートチーム担当者研修会(2日間の実地含む)

## 《院外活動》

- ・10月 鹿児島県食生活改善推進員連絡協議会ロコモ・フレイル予防啓発促進事業・調理実習研修会の講師派遣

## 【令和4年度 栄養管理室年間目標】

### ●医療事故の防止に努める

- ・アクシデント発生の防止
- ・インシデント報告の徹底
- ・他職種への食物アレルギーの聞き取りや入力方法の標準化と周知を図る

### ●業務改善を図る

- ・多職種との連携強化(外来と病棟に管理栄養士配置)

### ●食器の破損を減らす

- ・食器類の破損を昨年より減らす(経年劣化は除く)

# リハビリテーション室

部長 早川 亜津子

リハビリテーション部門では、本院・介護老人保健施設 わらび苑・訪問看護ステーション野の花に療法士を配置しリハビリテーションを提供しております。スタッフは、理学療法士(PT)47名、作業療法士(OT)20名、言語聴覚士(ST)6名、助手3名の76名で構成をしています。



今年度の大きな動きとしまして、本院急性期病棟と地域包括ケア病棟における365日リハビリテーションの実施を開始しました。これまでは、日曜祝日のリハビリテーションはお休みとしていましたが、365日介入可能とすることにより、いつ発症しても対応できるリハビリテーション提供体制としました。コロナ禍での面会制限もあり日曜祝日に「することがない」とおっしゃる患者様にも好評で、勤務する私たちスタッフにとっても勤務分散や平日に休暇がとりやすくなりました。すでに回復期リハビリテーション病棟は365日提供を行っていますので、上記整備により本院に入院する全患者様に365日リハビリテーション提供が行えることとなりました。

また、訪問リハビリテーション事業においても訪問看護ステーション「野の花」以外に、11月から本院、田上診療所での事業所開設を行いました。これにより、中種子町・南種子町への訪問リハビリテーション事業を拡大し、これまで以上に島民の方々への訪問リハビリテーション提供量を確保することができました。

今年度はコロナ禍、はじめてのコロナクラスター発生でリハビリテーション提供を完全にストップせざるを得ない経験をしました。その休止期間で、主任・副主任を中心としたチームリーダーが「どうすれば安全にリハビリテーション提供を再開できるか？」を考え模索し続けました。チームメンバーも日々変化する情報をキャッチし、状況に対応し専門職以外の業務においても賢明に取り組んでくれました。

コロナクラスターの経験が私たちに「自分たちで考える」成長の機会をくれたと考えます。

## <年間目標の振り返り>

### リハビリテーション室 令和3年度目標

1. おたがいが健康・幸福になる
2. 明確な成果にこだわる

目標1) コロナ禍の中で私と、私と関わる全ての方を「おたがい」と捉え、健康に幸福に生活を送ることができるように関わり続けることを目標としました。

目標2) 前年度の目標を踏まえ、臨床・教育・管理の成果にこだわって成果を出していくことを目標としました。

目標全体としては、80%の達成率であったと考えます。



## <育成・院外発表>

療法士たちの努力により各学会発表11件、各所属士会の症例発表3件とコロナ禍ではありましたがWEBを活用しコロナ前同等の発表することができました。また、療法士ではじめての全国学会での座長経験者も出すことができました。

次年度も引き続き、各所属士会の研修を履修、学会発表も継続し、各認定・専門療法士の取得・育成を目指していきたいと考えます。

また、今年度は終末期ケア専門士4名も誕生し、当院の終末期ケアを要する患者様やご家族様を支援できるよう活動していきたいと考えます。

療法士の7割以上は島外出身者で構成されるリハビリテーション室は、全国的にも珍しい集団です。療法士は、臨床業務以外に各自、研究や自己研鑽に努力し続ける専門家です。これからも、勤務している療法士と離れて暮らすご家族様にも安心していただけるよう、療法士の育成にも引き続き尽力していきたいと考えます。

## 各チーム紹介

### 急性期3西(内科病棟)外来チーム

リハビリテーション室 副主任 作業療法士 立花 悟

急性期3西(内科病棟)外来チームでは、発症して間もない患者様に対してリハビリテーションを実施しています。対象疾患は心臓疾患、呼吸器疾患などを中心に多岐にわたります。また、小児科病棟も併設しているため乳幼児から高齢者まで幅広い年齢層の方へのリハビリテーションの提供を行ってまいりました。

令和3年度急性期3西(内科病棟)外来チームでは、リハビリ室の「お互いが健康・幸福である」「明確な成果にこだわる」という年間目標に対して、「チームの中での役割(キャスト)を見出す」という目標をたてて行動してきました。

お互いが健康・幸福であるために、まず自分自身のチームの中での役割は何があるのかを各個人で見出す事でチーム全体に、さらにリハ室全体、各病棟スタッフ、患者様に還元していくという意識のもと、日々取り組んでまいりました。

新型コロナウイルスが全国的に蔓延する中、種子島でも、種子島医療センターでも、チーム全体としてもとても考えさせられる一年であったと思います。感染防止の観点から、思い通りにいかないことも多数あり、その都度考えさせられることが多くありましたが、現在こうしてまた入院されている患者様、外来リハビリテーションを利用されている利用者様へリハビリテーションを提供できることに喜びを感じています。

まだまだ、改善していかないといけないことはたくさんあります。これからも種子島医療センターへいらっしゃる患者様はもちろん、島民の皆様へより質の高いリハビリテーションの提供ができるように邁進していきたいと思っております。

## 急性期病棟 疾患別実績

疾患名	件数
脳梗塞	61
脳出血	3
脳塞栓症・血栓症	49
外傷性慢性硬膜下血腫	25
急性硬膜下血腫	3
中大脳動脈瘤破裂によるくも膜下出血	7
その他脳血管障害	18
アキレス腱・膝靭帯断裂	2
脊椎圧迫・椎体骨折	81
大腿骨近位部骨折	94
腰椎ヘルニア	10
肩甲骨、上腕、前腕、指骨折	83
腰部脊柱管狭窄症	12
頸椎症性疾患	3
頸髄・頸椎損傷	5
大腿切断術後	6
その他下肢骨折	15
その他上肢疾患	2
その他運動器疾患	316
消化器系がん	125
肺がん	25
その他がん	50
うっ血性心不全による廃用症候群	47
急性肺炎による廃用症候群	50
その他の廃用	237
誤嚥性肺炎 急性肺炎	117
慢性閉塞性肺疾患	16
その他呼吸器疾患	6
合計	1468

## 外来(成人)

疾患名	件数
肩腱板断裂・肩周囲炎	69
上肢骨折	13
腰部脊柱管狭窄症・変形性腰椎症	20
下肢骨折	26
神経内科疾患	10
脳梗塞・脳出血	38
頸椎症性脊髄症	21
その他の疾患	125
合計	322

## 外来(小児)

疾患名	件数
発達性構音障がい	46
自閉症スペクトラム	56
注意欠如多動性障がい	30
発達性協調運動障がい	3
運動発達遅滞	24
吃音症	7
学習障害	3
その他の発達障がい	46
合計	215

## 小児リハビリテーション派遣実績

派遣先	件数
療育支援事業 巡回相談	11
西之表乳幼児健診	3
中種子乳幼児健診	5
南種子乳幼児健診	4
中種子養護学校	1

## 地域包括ケア病棟チーム

### リハビリテーション室 室長 作業療法士 酒井 宣政

地域包括ケア病棟とは、急性期治療を終了した後に自宅退院に向けて準備が必要な患者さんや、施設へ移行するにはまだ不安のある患者さんに対して最後までその方らしい暮らしへ向けて治療・援助を行うための病棟です。医師、看護師、ソーシャルワーカー、ケアワーカーやリハビリテーション職種などの病院内の多職種のみならずご家族やケアマネジャー、在宅や施設の職員などとの連携も重要となります。

リハビリテーション室の地域包括ケア病棟チームの2021年度目標は、リハビリテーション室目標の「1.おたがいが健康・幸福になる。」に対しては「勝動を通して病棟全体が笑顔になる」を「2.明確な成果にこだわる。」に対しては「勝動の効果を明確にする」「地域包括ケア

病棟でのリハビリのあり方を知る》を掲げてスタートしました。

また、それぞれに対して具体的な行動目標として、①季節を感じられる病棟にする。②在院日数の検討③入院患者の意欲の評価④地域包括ケア病棟の勉強会開催⑤病棟責任者会議の実施としました。

「勝動」とは各療法士が各患者様と行う個別リハビリテーションを同じ場所で行います。手工芸を実施したり、体操を行ったりします。2021年度はコロナ禍の影響を大きく受ける1年となりました。感染の観点からソーシャルディスタンスが叫ばれ、勝動の実施は困難な状況が続きました。どの様にすれば感染予防と両立できるのか悩む時間が長く必要でしたが、最終的には体操などの勝動は行わず、以前から行っていた病棟の壁紙を各患者様別時間で作成したりなどで対応しました。

その他の行動目標に関してもコロナ禍の影響を受けスタッフで集まることが困難となったり、チームミーティングの開催が困難となったりと翻弄されました。年度末にそれぞれの具体的な行動目標に対しての各メンバーの主観的評価を行いました。それぞれでバラついており、状況の共有が不足していたことが悔やまれます。しかし、業務に関しては全体的にはコロナ禍という難しい状況の中、各担当間でコミュニケーションをとりながら比較的笑顔で過ごすことが出来たのではないかと感じています。

2022年度の目標は、リハビリテーション室目標である「前進・変容するBOSを作るリハビリテーション部」に対して《「楽しい」を見出す》という大きな目標を掲げました。どの様な状況でも前に進むことが出来る様に「楽しい」を自ら見出せる様になることが必要と考えたからです。そのための《チーム内でアウトプットがしやすい環境作り》《新しい「勝動」の形を見出し、再開につなげる》《その人に合ったFIMの目標値を設定できるようになる》という具体的な目標として掲げました。

コロナ禍の影響は今後も少なからずあると想定し、また、地域包括ケアシステムが構想された際に想定されている2025年が近付いています。更なる高齢化を考慮し必要とされるリハビリテーションの進化していくことが予測されます。地域包括ケア病棟の包括算定リハビリテーションについてCARB(補完代替リハビリテーション)なども見据えつつ私達リハビリテーションスタッフも形を変えながら、入院患者様や私達スタッフともども笑顔でイキイキと対応していければと感じています。

地域包括ケア病棟 疾患別実績

疾患名	件数
脳梗塞	35
脳塞栓	15
硬膜下血腫	14
脳出血	9
脳挫傷	3
パーキンソン病	3
てんかん重積状態	3
頸髄損傷	2
筋萎縮性側索硬化症	11
その他の脳血管疾患	6
大腿骨近位部骨折	14
圧迫骨折	26
下腿骨折	6
足部・足趾の骨折	5
膝蓋骨骨折	
鎖骨、肩甲骨、上腕、前腕、指骨折	35
その他の骨折	3
肩関節脱臼	6
肩関節人工関節	2
手指腱断裂	5
腱板断裂	4
半月板損傷	2
運動器不安定症	174
その他の運動器疾患	20
消化器がん	72
肺がん	15
その他のがん	8
急性肺炎	80
誤嚥性肺炎	50
その他の肺炎	16
COPD	28
その他の呼吸器疾患	21
心不全による廃用症候群	141
肺炎による廃用症候群	47
心筋梗塞による廃用症候群	6
急性腎盂腎炎による廃用症候群	28
Covid-19による廃用症候群	4
その他の廃用症候群	189

# 回復期リハビリテーション病棟チーム

リハビリテーション室 副室長 作業療法士 濱添 信人

回復期リハビリテーション病棟は2021年1月より回復期リハビリテーション入院料Iの算定が開始になり、リハビリテーションの提供量だけでなく、質の高いリハビリテーションの提供、多職種連携協働の強化を病棟全体で取り組み続けています。

2021年のリハビリテーション室の目標は「おたがいが健康・幸福になる」と「明確な成果にこだわる」であり、この目標に対して回復期リハビリテーション病棟リハビリチームでの目標を立てて、1年間取り組みました。

チーム目標としては、「考え続けて行動し続けるセラピスト・チームを目指す」・「使命・目的・役割・目標へ熱く実践できる人財になる」・「意見を発信できる人財になる(考える、考えを伝える、意見を伝える)」の3つの目標を立てました。

チームの取り組みでは、スタッフ数が30名以上のチームになったため、チームを2つに分けて2グループ制でのチーム運営に取り組みました。その他の取り組みでは各スタッフの健康度や幸福度・目標達成度を毎月振り返る個人目標シートの導入、リハビリテーションの質向上を図る目的での先輩たちによる臨床直接教育、あらゆる視点で患者様を支援する目的での複数担当制の導入、スタッフが効率よく業務が行えるように環境整備や業務マニュアルの整理、スタッフ一人ひとりが意見を発信できる人材育成目的でのミーティング方法の工夫など、多くの取り組みを実践しておりました。

今後も種子島唯一の回復期リハビリテーション病棟として、島民の方々が安心して住み慣れた地域に帰り、生活し続けられるように病棟一丸になって取り組んでいきたいと思っております。

回復期リハビリテーション病棟 疾患別実績

疾患名	件数
脳梗塞	106
脳出血	44
脳塞栓症・血栓症	74
慢性硬膜下血腫	8
急性硬膜下血腫	3
外傷性くも膜下出血	3
その他脳血管障害	6
アキレス腱断裂	0
骨盤骨折	19
脊椎圧迫骨折	74
脊椎椎体骨折	35
脊椎破裂骨折	8
大腿骨頸部骨折	50
大腿骨転子部骨折	71
前十字靭帯断裂	2
大腿骨顆上骨折	14
大腿骨転子下骨折	4
左大腿骨内顆骨壊死	2
THA	13
TKA	50
脛骨高原骨折	2
膝蓋骨骨折	18
膝関節側副靭帯損傷・断裂	2
半月板損傷・断裂	4
脊髄損傷	3
腰部脊柱管狭窄症の術後	2
椎間板ヘルニア術後	0
その他頸椎症性疾患術後	4
大腿・下腿切断術後	2
その他骨折	12
うっ血性心不全による廃用症候群	3
急性肺炎による廃用症候群	6
誤嚥性肺炎による廃用症候群	1
急性膀胱炎による廃用症候群	4
その他廃用	20
その他	12
合計	681

## 活動紹介

### がんのリハビリテーションについて

リハビリテーション室 理学療法士 福島 佑

皆さんはがんのリハビリテーションをご存知でしょうか？

リハビリテーションというと「骨折した後に歩く練習をすること」「脳卒中で麻痺した手足を治療すること」というイメージが強いのではないのでしょうか？

これらはリハビリテーションのほんの一部です。がんになると、がんそのものによる痛みや食欲低下、息苦しさ、だるさによって今まで通り動けなくなることがあります。また、手術や薬物療法、放射線治療などを受けることによっても身体機能が低下することがあります。このような状況では、日常生活に支障をきたし、家事や仕事、学業など社会生活への復帰が難しくなり、生活の質が著しく低下します。よって、その人らしさが損なわれてしまいます。しかし、がんになっても、日常生活を維持し、本人が望むその人らしい生活を送ることは可能です。そのために欠かせないのが“がんリハビリテーション”です。

このがんのリハビリテーションは、医師や医療ソーシャルワーカー、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士など様々な専門職からなるチームとして提供されます。

がんリハビリテーションは診療報酬を算定するにあたり「厚生労働省後援 がんのリハビリテーション研修」を受講することが必須となっています。理由はがん医療全般の知識が必要とされると同時に、運動麻痺、摂食・嚥下障害、浮腫、呼吸障害、骨折、切断、精神心理などの障害に対する高い専門性が要求されるためです。研修は医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等のチーム単位で受講します。当院では25名が研修しており、今年度新たに15名が研修を受講いたしました。総勢40名が講習を修了して、チームでのリハビリテーションを実践しています。

種子島医療センターは「地域がん診療病院」の指定を受け、熊毛地区におけるがん医療の大きな役割を担っています。今後も島で暮らす患者様がそのひとらしく生活しながら継続できるがんのリハビリテーションの提供に努め、「がんと共存していく、がん医療」に取り組んでいきます。

## 活動紹介

### 医療的ケア児等支援者及びコーディネーター養成研修に参加して

リハビリテーション室 理学療法士 原田 寛司

医療的ケア児とは、医学の進歩を背景として、NICU等に長期入院した後、引き続き人工呼吸器や胃ろう等を使用し、痰の吸引や経管栄養などの医療的ケアが日常的に必要な児童のことを指します。

このコーディネーターは医療的ケア児が必要とする多分野にまたがる支援の利用を調整し、総合的かつ包括的な切れ目のない支援の提供に繋げるとともに、協議の場に参画し、地域における課題の整理や地域資源の開発等を行いながら、医療的ケア児に対する支援のための地域づくりを推進するといった役割を担っています。

私は令和3年度鹿児島県医療的ケア児等支援者及びコーディネーター養成研修に参加させていただきましたが、島内におきましてはチームを統括するコーディネーターの不足、フォーマルサービスが不足していることが課題であると考えております。今後は、これらの課題と向き合い、多職種連携を図りながらご家族や利用者へサービス提供及び提案を行い、支援を続けていきたいと思っております。



## 活動紹介

### 終末期ケア専門士について

作業療法士 濱添 信人 作業療法士 川原 理栄子 理学療法士 門脇 淳一 理学療法士 小早川 葵

終末期ケア専門士とは、2020年に日本終末期ケア協会によって新設された資格であり、死を間近にした方のケアをするための認定資格です。病気や老衰などによって人生の最期を迎える方に寄り添い、身体的・精神的苦痛を緩和しながらその人らしい生活が出来るように支える役割を担う終末期ケアのスペシャリストに与えられる資格でもあります。また、終末期ケアの多種多様な課題を解決するため、患者・利用者様の一番近くで支える人を育成する役割があります。

私たちは終末期ケアの専門士として、日常生活を支えるケアや延命治療に関する意思決定支援、家族のケアなどの専門的な知識を用いて、患者様や利用者、家族の残された時間を豊かにするための医療・介護の提供に貢献していきます。

#### <資格取得の動機や抱負>

##### ○濱添 信人

終末期ケア専門士の資格にチャレンジすることで、リハビリテーション以外の知識や技術を学ぶことができ、あらゆる視点から患者さんと関われるようになったと実感しています。医師や看護師との連携では、治療や看護、ケアについても話す機会が増え、提供するリハビリテーション支援の幅が広がったと思います。さらに上の終末期ケア上級専門士を目指してがんばります。

##### ○川原 理栄子

コロナ禍を通して「どの様にしたら、患者様だけでなくご家族も一緒に楽しく生活できるか」を考えるようになりました。終末期ケア専門士の役割は作業療法士に通じるものも多く、「その方らしい生活・人生を送る」手助けできるのではないかと思います。資格を取得しました。島民の皆様が最期まで住み慣れた種子島の生活を楽しく、幸せに送れるようにお手伝いできればと思っています。

##### ○門脇 淳一

終末期ケア専門士の資格を取得したことで、患者さんやご家族にとって何が一番良いのか、どうすれば最期までその人らしく生活できるのかということをより考えるようになりました。人生の最期を迎える時、ご本人や周りの方々が少しでも満足して迎えられるように理学療法士として支援していきたいと思っています。患者さんやご家族が安心して相談できる相手になれたら幸いです。

##### ○小早川 葵

心疾患終末期の患者様を担当させていただき、何もできない自分に後悔した経験からこの資格を取ることを決めました。これからも「最期こそは」、「最期だけは」という気持ちを忘れず、誰とどのように過ごすのが幸せかを優先し、最良の方法を一緒に見つけます。患者様、家族様の「最期」をかけがえのないものにできるよう、さらに終末期ケア上級専門士の資格取得を目指しますので、ぜひ私たちを頼ってください。



## 活動紹介

### 転倒予防指導士について

リハビリテーション室 理学療法士 末吉 優紀乃

#### 転倒予防指導士とは

75歳以上の高齢者人口が増加していくにしたがって、高齢者の死亡や寝たきりの原因としての「転倒及び転倒による外傷・骨折」は、健康寿命を延ばすために重要な要因となっています。家庭内や地域社会、病院や福祉施設など、身の回りのあらゆる場所で転倒は発生しています。

日本転倒予防学会では、転倒にかかわる学術的研究を進めていくとともに、転倒予防にかかわる情報を整理し、社会に「転倒に対する正しい知識と経験」について広く啓蒙活動を行って、学術の発展と共に、人々の健康増進に寄与することを目的として「転倒予防指導士」の認定制度を開始しました。

種子島は、2020年時点で65歳以上の高齢者が占める割合が35%を超えており、私たちリハビリテーション部が「転倒により外傷・骨折などを負った患者様」と接する機会も多くあります。また自宅で転倒し、入院することとなった患者様だけでなく、入院中に転倒し、入院期間が長引いてしまう患者様もいらっしゃいます。私たち医療職が種子島の方々にできる事や、病院の中だけでなく、自宅でも安全に過ごしていただくために必要な事を、少しでも手助けができればと考えています。



#### 今後の抱負

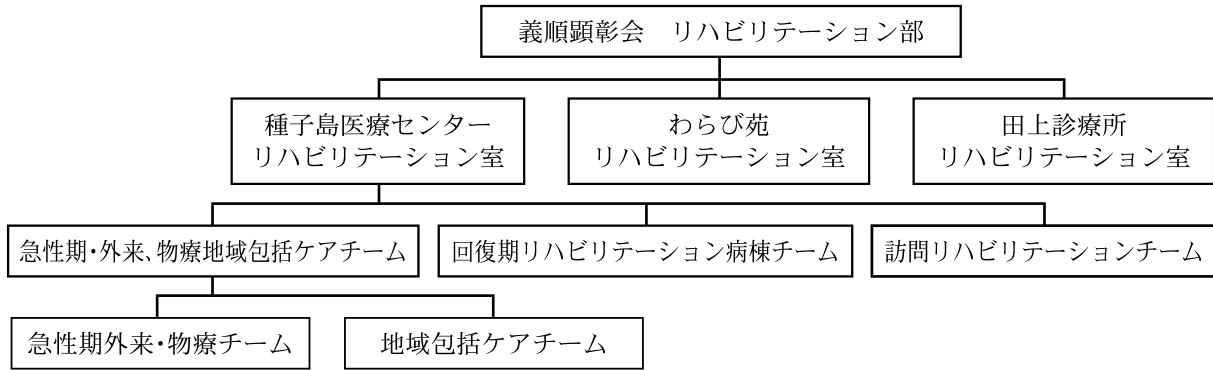
当院でも転倒転落による入院や、入院中の転倒転落事故は毎年発生している状況や、また毎年行われるリハビリテーション室の研究発表でも、転倒リスクについて分析する研究にかかわらせていただいた経験もあり、もっと深く学んでいきたいと思って資格を取らせていただきました。今後も学会の勉強会などに参加し、知見を深め、種子島の皆様へ少しでも還元できるように努力していきたいと思っています。

もともと「地域に根差した病院」であるというところに惹かれて種子島医療センターに入職しました。患者様が健康で安全に普通の生活を過ごせるためのリハビリテーションを提供するために、将来的には他施設とも協力しながら、ご自宅で楽しく過ごしていただくために何が出来るかというのを、転倒予防の面からも関わっていかれたらと思っています。





# 組織図 (令和3年4月1日～令和4年3月31日)



部長	理学療法士	早川 亜津子	副主任	作業療法士	中村 舞
室長	作業療法士	酒井 宣政	副主任	作業療法士	立花 悟
副室長	作業療法士	濱添 信人			
主任	理学療法士	中村 裕二			
主任	理学療法士	山口 純平			
主任	作業療法士	川原 理栄子			

理学療法士	門脇 淳一	理学療法士	古田 菜々子	助手	長野 豊子
理学療法士	小川 哲哉	理学療法士	浜崎 夏帆	助手	吉永 舞
理学療法士	本城 裕美	理学療法士	平田 翔梧	助手	岩元 真美
理学療法士	大坪 正拓	理学療法士	大木田 晃紘		
理学療法士	立切 彩乃	理学療法士	鬼塚 楓		
理学療法士	宿利 佳史	理学療法士	諸隈 恭介		
理学療法士	畠本 裕一				
理学療法士	福島 佑	作業療法士	上村 有希子		
理学療法士	田島 拓実	作業療法士	川畑 真由子		
理学療法士	末吉 優紀乃	作業療法士	西 愛美		
理学療法士	内村 寿夫	作業療法士	田島 早織		
理学療法士	當房 早織	作業療法士	上野 瞬		
理学療法士	石堂 晃洋	作業療法士	渡瀬 めぐみ		
理学療法士	岩永 浩樹	作業療法士	八嶋 美和		
理学療法士	上原 瑞生	作業療法士	大田 巧真		
理学療法士	向井 大輔	作業療法士	當房 紀人		
理学療法士	馬場 健大	作業療法士	下東 鈴		
理学療法士	原田 寛司	作業療法士	塙 京夏		
理学療法士	吉里 公一	作業療法士	中森 純香		
理学療法士	中山 航平	作業療法士	市來 政樹		
理学療法士	小早川 葵	作業療法士	江口 香鈴		
理学療法士	基 早紀子				
理学療法士	入江 宣圭				
理学療法士	遠藤 樹				
理学療法士	吉村 祐佳里	言語聴覚士	福島 麻理		
理学療法士	白石 圭太	言語聴覚士	松尾 あやの		
理学療法士	坂ノ上 兼一	言語聴覚士	和田 楓貴		
理学療法士	福田 一誠	言語聴覚士	長田 和也		
理学療法士	大竹 喜一郎	言語聴覚士	入江 色葉		

# 療法士 修了証一覧

## 理学療法士一覧 (令和4年3月現在)

名前	受講年月日	内容
早川 亜津子	2021.7.25	日本理学療法管理研究会 評議員 (令和3年7月15日～令和7年6月まで)
	2021.10.30	訪問リハビリテーション振興委員会 令和3年度訪問リハビリテーション実務者研修会受講証
	2022.1.1	日本臨床倫理学会 臨床倫理認定士研修会2021認定証 臨床倫理認定士(～2026年12月31日)
	2022.2.6	厚生労働省医政局 第636回臨床実習指導者講習会
門脇 淳一	2021.4.1	一般社団法人日本認知症ケア学会 認知症ケア専門士認定証(更新)
	2022.2.1	一般社団法人日本終末期ケア協会 終末期ケア専門士
山口 純平	2021.6.5	一般財団法人 ライフプランニング・センター「がんのリハビリテーション研修」修了証
	2021.11.21	第27回藤田ADL講習会－FIMを中心に－ 受講証明書
小川 哲哉	2022.2.6	厚生労働省医政局 第636回臨床実習指導者講習会
	2022.2.26	ライフ・プランニング・センター「がんのリハビリテーション研修」修了証
立切 彩乃	2022.1.26	厚生労働省医政局 第636回臨床実習指導者講習会
大坪 正拓	2021.12.5	運動処方研究会・NPO法人ジャパンハートクラブ 第72回運動処方講習会 受講証明書
	2022.2.19	ライフ・プランニング・センター「がんのリハビリテーション研修」修了証
福島 佑	2021.7.21	東京商工会議所 福祉住環境コーディネーター検定試験2級合格
	2021.9.30	公益社団法人日本理学療法士協会 フレイル対策推進マネージャー修了認定書
	2022.2.19	ライフ・プランニング・センター「がんのリハビリテーション研修」修了証
田島 拓実	2022.2.6	厚生労働省医政局 第636回臨床実習指導者講習会
内村 寿夫	2021.10.30	訪問リハビリテーション振興委員会 令和3年度訪問リハビリテーション実務者研修会受講証
	2022.2.6	厚生労働省医政局 第636回臨床実習指導者講習会
當房 早織	2021.11.11	厚生労働省医政局 第556回臨床実習指導者講習会 修了証
	2021.9.4	ライフ・プランニング・センター「がんのリハビリテーション研修」修了証
	2021.11.11	厚生労働省医政局 第556回臨床実習指導者講習会 修了証
岩永 浩樹	2022.3.24	お茶の水ケアサービス学院株式会社 福祉用具専門相談員指定講習会 修了証書
	2021.9.4	ライフ・プランニング・センター「がんのリハビリテーション研修」修了証
原田 寛司	2022.1.12	鹿児島県 医療的ケア児等支援者養成研修修了証書
	2022.3.20	鹿児島県 医療的ケア児等コーディネーター養成研修修了証書
小早川 葵	2022.2.1	一般社団法人日本終末期ケア協会 終末期ケア専門士
基 早紀子	2021.12.1	日本理学療法士協会 新人教育修了認定書
入江 宣圭	2021.4.4	日本理学療法士協会 新人教育修了認定書
白石 圭太	2021.11.29	日本理学療法士協会 新人教育修了認定書
坂ノ上 兼一	2021.11.29	日本理学療法士協会 新人教育修了認定書
	2022.2.26	ライフ・プランニング・センター「がんのリハビリテーション研修」修了証
浜崎 夏帆	2022.2.19	ライフ・プランニング・センター「がんのリハビリテーション研修」修了証
酒井 宣政	2021.8.16	一般社団法人日本作業療法士協会 認定作業療法士取得研修 合格証
濱添 信人	2021.7.25	第26回藤田ADL講習会－FIMを中心に－ 受講証明書
	2022.2.1	一般社団法人日本終末期ケア協会 終末期ケア専門士
川原 理栄子	2021.11.21	第27回藤田ADL講習会－FIMを中心に－ 受講証明書
	2022.2.1	一般社団法人日本終末期ケア協会 終末期ケア専門士
西 愛美	2021.11.28	一般社団法人日本作業療法士協会 認定作業療法士取得研修 合格証
	2021.12.12	厚生労働省医政局 臨床実習指導者講習会修了証書
川畑 真由子	2021.9.4	ライフ・プランニング・センター「がんのリハビリテーション研修」修了証
	2021.12.12	厚生労働省医政局 臨床実習指導者講習会修了証書
立花 悟	2021.7.25	第26回藤田ADL講習会－FIMを中心に－ 受講証明書
	2021.12.12	厚生労働省医政局 臨床実習指導者講習会修了証書
渡瀬 めぐみ	2021.9.1	一般社団法人日本作業療法士協会 基礎研修修了証(2026.8.31まで)
八嶋 美和	2021.7.30	厚生労働省医政局 臨床実習指導者講習会修了証書
大田 巧真	2021.12.12	厚生労働省医政局 臨床実習指導者講習会修了証書
當房 紀人	2021.12.12	厚生労働省医政局 臨床実習指導者講習会修了証書
下東 鈴	2021.9.4	ライフ・プランニング・センター「がんのリハビリテーション研修」修了証
市來 政樹	2022.2.26	ライフ・プランニング・センター「がんのリハビリテーション研修」修了証
松尾 あやの	2021.6.5	一般財団法人 ライフプランニング・センター「がんのリハビリテーション研修」修了証
	2021.12.18	一般社団法人こころのみらい 令和3年こころのみらい公認心理師現職者講習会 修了書
和田 楓貴	2022.2.26	ライフ・プランニング・センター「がんのリハビリテーション研修」修了証
	2022.2.19	ライフ・プランニング・センター「がんのリハビリテーション研修」修了証
長田 和也	2022.2.19	ライフ・プランニング・センター「がんのリハビリテーション研修」修了証
入江 色葉	2021.6.5	一般財団法人 ライフプランニング・センター「がんのリハビリテーション研修」修了証

# 地域医療連携室

室長 坂口 健

室長／坂口 健(社会福祉士)  
主任／加世田 和博(社会福祉士)  
入退院支援看護師／山口 さつき



地域医療連携室には、2名のソーシャルワーカー(社会福祉士)、入退院支援看護師1名が勤務し、患者様やご家族からの相談、関係機関等との連携業務を行っている。

## 【令和3年度 地域医療連携室年間目標と評価】

### 【年間目標】退院支援の充実

▽入院時情報収集の充実      ▽関係機関との連携

### 【目標評価】

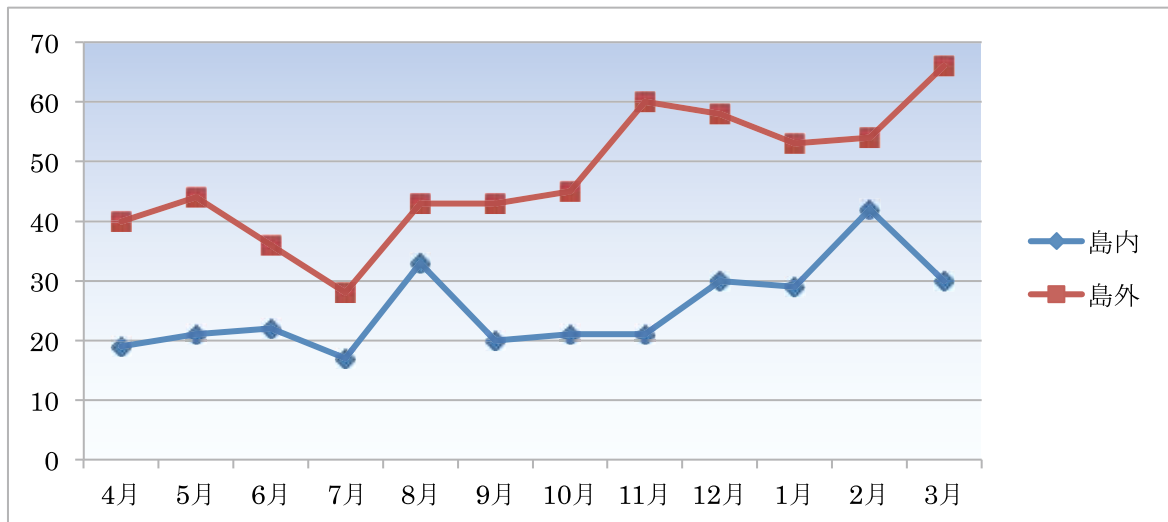
▽入院時情報収集の充実・・・95%

各居宅支援事業所・施設へ入院時連絡を行い、入院前情報・ケアプラン提供を依頼し早期情報収集の充実を図った。

▽関係機関との連携・・・90%

コロナ禍の面会禁止により、主に電話や書面での情報提供となった。

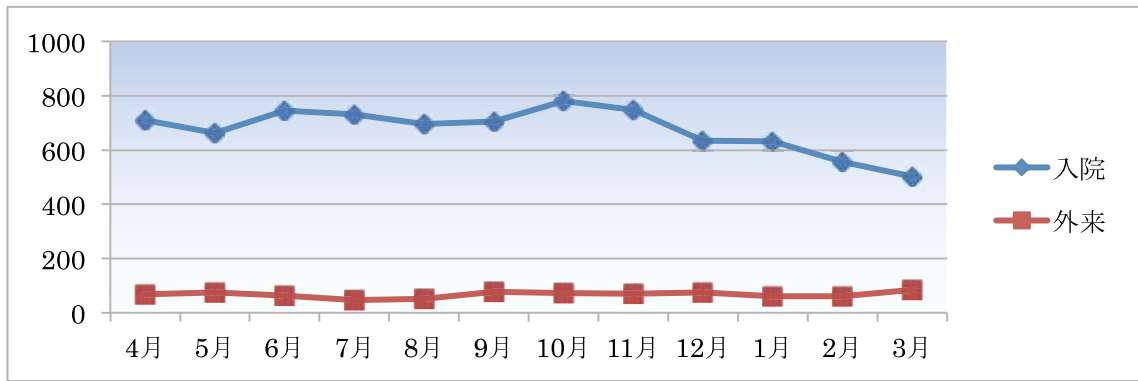
### ▽医療機関との連携数



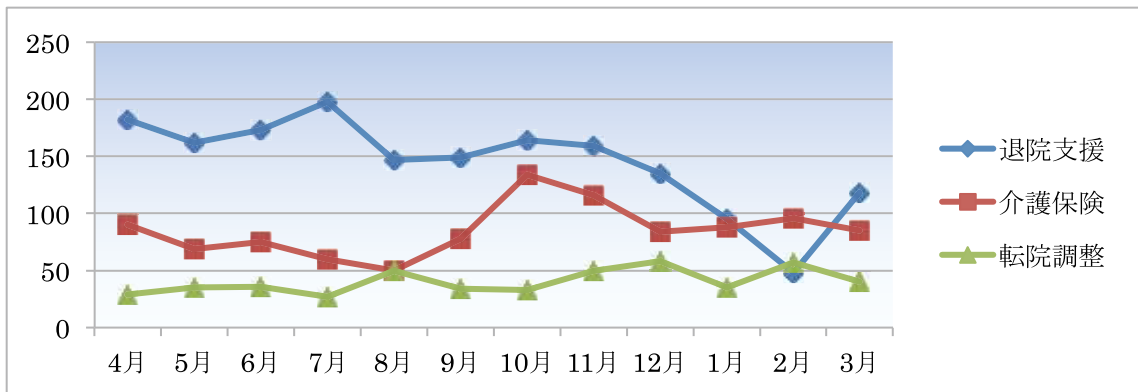
### ▽主な連携医療機関

鹿児島大学病院・鹿児島市立病院・いまきいれ総合病院・南風病院・鹿児島医療センター  
今村総合病院・いづろ今村病院・米盛病院・相良病院・天陽会中央病院・厚生連病院  
公立種子島病院・中種子クリニック・百合砂診療所・中目医院・せいざん病院・高岡医院  
ともファミリークリニック

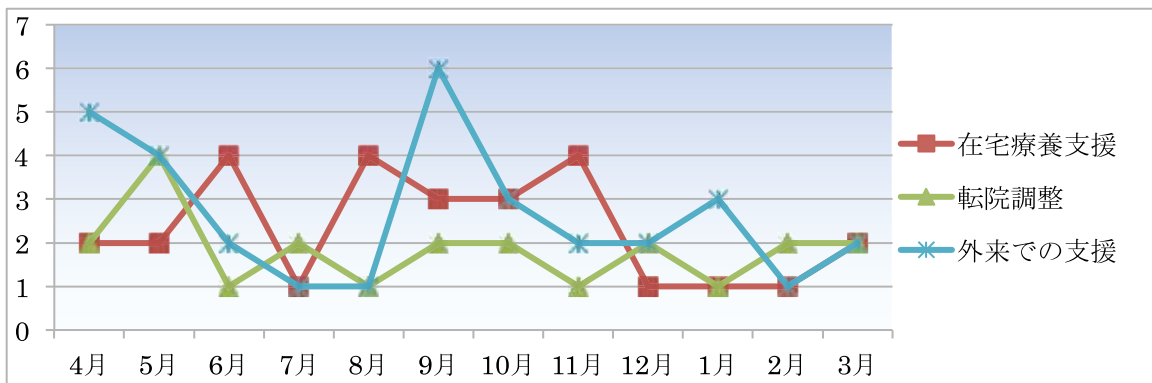
## ▽相談件数(年間件数;入院…8106 外来…806)



## ▽主な相談内容別件数



## ▽主ながん相談支援件数



コロナ禍の面会禁止により、ご家族やケアマネジャー等が、直接患者様の状態を間近で確認できない状況が続いている。随時、電話・書面での情報提供は行うが、患者様の現状に対する認識に相違が生じ、退院後の支援に対して妨げになることがある。

このような状況下でもスムーズな支援が出来るように、あらためて令和4年度の年間目標は昨年度同様に、退院支援の充実、関係機関との連携強化をあげることにした。

---

事 務 部

---

## 事務部

## 総務課

施設警備係主任 濱田 純一

事務長／白尾 隆幸 総務課長／飯田 雄治  
 総務・人事係／渡瀬 幸子(係長)、山下 真子  
 医局事務係／上原 きよみ(係長)、迫田 雅代  
 経理係／森永 隆治(係長)、山田 加奈子  
 施設整備係／塩崎 光治(係長)、奈尾 武志、一葉 朋哉  
 施設警備係／濱田 純一(主任)  
 用度管理係／徳本 久美子(主任)、山田 利恵



## 『病院理念』を目指して

私は平成二十八年三月、県警を定年退職し翌四月から当院に入職して丸六年が過ぎました。主な業務は、

- 病院全体の警備・防犯
- 非常勤の先生方の送迎
- 駐車場の誘導・整理
- 院内のトラブル解決 等であります。

私が業務をするに当たって二点心掛けていることがあります。

まず一点目は、患者様等と接する場合は「優しい目」で対応することです。私が当院に入職する一ヶ月前に「還暦同窓会」があり、同級生から再就職を聞かれ、「種子島の病院で勤務することになった。」と話しました。するとその同級生は、「君の目は警察官の時は良いかもしれないが、退職後はその目はダメ。ましては病院職員になるのであればなお更のことだ。」と忠告されました。

入職して二ヶ月位過ぎたある日、病棟職員と入院患者様とのトラブルが発生しました。トラブルの原因究明を図るため、当事者双方から話を聞くことにしました。入院患者様から話を聞いている時、「あんたの目は刑事の目をしている。」と指摘されました。その時までは、以前同級生から言われたことをすっかり忘れていました。

現在は前職(警察官)の殻が抜け、患者様等に「優しい目」で対応しています。

二点目は、クレーマー対応について「謝罪と傾聴」に徹することにしていきます。入職した年の八月に、大阪で開催された「病院風評を損なわないハードクレーマー対策講座」に参加させて頂きました。その講座でクレーマー対策は「謝罪と傾聴」が鉄則であると教わりました。

つまり、

- いかなる立場の者が対応しても、いかなる場合であっても、まず「謝罪」に徹すること。
- クレームを受けた場合は、しばらくは話を遮ることなく「傾聴」すること。

であります。

現在まで、数件のクレーマー対応を行っておりますが、「謝罪・傾聴」の鉄則を遂行して問題なく処理しています。

今後は、『病院理念』である「島民の皆さまに愛され信頼される病院」を目指して、微力ではありますが真摯な姿勢を堅持して取り組んでいきます。

# 医事課

入院医事主任 上妻 保幸



入院医事主任／上妻 保幸 外来医事主任／赤木 文 外来医事副主任：長野 さゆり  
 入院医事常勤／荒河 真奈美、福山 龍巳、小脇 宏之  
 外来医事常勤／野元 かおり、長野 加奈子、入江 優子、日高 優里、深野木 未来  
 外来医事非常勤／植村 三枝、今西 李奈、中目 文代  
 予約センター／西村 智子、馬越 小百合、深田 育代  
 フロアスタッフ／大迫 けい子、上妻 由夏、松元 尚美、赤木 七海、大仁田 多恵

## 【令和3年度 医事課年間目標】

- (1) 患者サービスの向上
  - 患者様の目線にたって、丁寧で気持ちの良い接遇を心がける
- (2) 診療報酬請求に関する知識と業務の質の向上
  - レセプト査定率の減少、レセプトチェックシステムの効率的な活用
- (3) チーム医療への貢献
  - 他部署との情報共有を積極的に行う

## 【実績と振り返り】

- (1) 患者サービスの向上
 

患者サービスの向上については前年度同様、病院ホームページ診療予定等の内容が充実できた。接遇強化に関しては、患者様に接遇アンケートを実施し、また職員に対しては、接遇評価から指導までを行った結果、一人ひとりの意識改善につながり前年度より満足度も得られた。
- (2) 診療報酬請求に関する知識と業務の質の向上
 

査定率については、査定事例確認の徹底を行い、入院・外来共に査定対策をしっかりと出来たこともあり、社保・国保共に大幅な減少が出来た。
- (3) チーム医療への貢献
 

コロナ感染が島内でも発生しており、発熱外来では初期対応を医事課が行っている。まず症状等の確認を行い、発熱担当看護師と連携して患者への案内、最後の会計まで対応を行っている。主に外来看護師を中心にチーム医療について貢献できたと考える。

## 【令和4年度 医事課年間目標】

- (1) 患者サービスの向上
  - 接遇満足度アンケート、職員への評価・指導の実施し、満足度10%UPを目指す。

## (2) 診療報酬請求に関する知識と業務の質の向上

○レセプトチェックシステムの効率的な活用と査定事例確認の徹底

## (3) チーム医療への貢献

○他部署との情報共有を積極的に行い各自の持ちうるスキルの活用

○委員会活動へ積極的に参加する

## 広報企画課

竹田 英子

広報企画課課長／飯田 雄治

竹田 英子、姫野 ナル

広報企画課では、昨年度に引き続きホームページのリニューアルの他、既存のパンフレット等のリニューアルを進めております。これはさらなる未来へ向けての病院のCI(コーポレート・アイデンティティ)の一環で、ホームページに掲げている「しあわせの島、しあわせの医療。」をより浸透させるために、パンフレットなどの病院で使用するツールを統一のイメージで表現していきます。

現在はホームページのリニューアルが8割ほど終わり、懸案事項であったモバイルのトップ画面も見やすく変更しました。今年度もコロナ禍のもと多くのイベントが中止になりましたが、研修や勉強会はネットを活用した新たな形で開催され、認定看護師、認定理学療法士等の資格にチャレンジする職員も増えました。

ホームページには職員のインタビュー記事を掲載し、お知らせする情報やスタッフブログも頻繁に更新されるようになり、おかげでホームページ全体のビュー数が1日1000~1500と、以前に比べて大幅に伸びていることはうれしいことです。

1月8日には、TOKYO MXテレビ(東京メトロポリタンテレビジョン)の医療特番「ドクターズアイ」で、種子島医療センターの取り組みが紹介され、さまざまな方から反響をいただきました。今後は動画作成、配信にも力を入れていく予定です。

今年度は、看護部パンフレットと看護部紹介動画、ホームページは「リハビリテーション」、「健診・検診」、「看護部」、「リハビリテーション室」が完成する予定でしたが、コロナの影響もあり数回に渡って撮影が延期となったため、次年度へ持ち越されることとなりました。コロナ対応で大変な状況の中、撮影のために臨機応変に対応してくださった職員の皆さまには、この場を借りて心からお礼申し上げます。





---

# 直轄部門

---

## 直轄部門

## 医療安全管理室

教育師長(医療安全管理者) 上妻 智子

医療安全管理責任者:病院長/高尾 尊身

医療安全管理者:教育師長/上妻 智子、看護部長/戸川 英子

リハビリテーション部部長/早川 亜津子

## 【令和3年度 医療安全管理室年間目標】

- ・医療安全地域連携加算2を取得。
- ・迅速な情報収集とフィードバックを行う。

## 【実績】

## ① 医療安全地域連携加算2を取得

医療安全対策加算1を取得されている、公益社団法人昭和会 いまきいれ総合病院様への連携依頼を行い、令和4年度3月4日にオンラインによる評価会議を実施し令和4年2月1日からの加算取得へ結びついた。

## ② インシデントレポートからの情報収集と初期対応、分析、評価

毎週及び緊急時のインシデントレポートの確認及び関連部署リスクマネージャーとの連携を取りながら改善に取り組みしたが、繰り返されるエラー(確認行動の怠り)については今後も改善にむけて、繰り返し声掛け周知を行い取り組む必要がある。

## ③ 院内ラウンド(金曜日)

病院長、看護部長、施設設備主任、施設警備主任の他に各部署責任者を交え、毎週全部署のラウンドを行い、環境改善にむけての検討、実施後の評価を実施した。

今年度もコロナ感染状況を踏まえて随時感染管理認定看護師も参加し、院内の環境面からの感染対策や安全対策の強化につながった。スタッフからも現場の意見を聞く機会でもあり、今後も継続して行く。

## ④ 事例に関する検討会開催

医療安全に関する症例検討会を2回開催した。

## ⑤ 院内全死亡報告症例の内容確認

全死亡報告の点検、を継続しているが、説明や同意書の取得も定着出来ていると感じる。今後も継続となるであろう面会制限下であるからこそ、ご家族との情報共有を強化し、信頼関係のもとに医療提供の構築に取り組んで行きたい。

## ⑥ 院内外の医療安全情報の収集と医療安全ニュース発行

院外の医療安全情報をエントランスや紙媒体、会議で周知した。院内医療安全ニュースは3回発行。例年より発行数が少なかったことは次年度改善に取り組みたい。

## 【令和4年度 医療安全管理室年間目標】

- ・リスク0レベル報告の推進強化
- ・医療安全地域連携加算2の継続

## 業務について

今年度初めて、第三者機関からの評価として、公益社団法人昭和会いまきいれ総合病院様への連携、依頼で、コロナ禍という状況の中、本来であれば訪問による相互評価ではあるが、いまきいれ総合病院の医療安全管理者及び多くの関係者のご協力を頂き、オンラインによるZoom会議を実施し、医療安全地域連携加算2の取得へ繋げたことは、今年度の成果として喜ばしい事だった。

来年度も、医療安全地域連携加算2継続を含め、医療安全管理者育成に向けて、リハビリ部門や看護部から合わせて4名の研修参加者予定しており、次年度の活動に繋げるようにしていきたい。令和2年度より医療安全管理室のリハビリ室早川部長が転倒転落防止委員会と一緒にサポートを強化し、様々な転倒転落に関する啓蒙活動や具対策など実施協力して頂いている。

また、各部門からも報告や相談もあり、部門長とともに再発防止策も検討できる風土が構築できつつあると感じている。医師、臨工学技士、理学療法士、薬剤師も医療安全管理者養成研修者を養成することができ、多職種で取り組める体制も年々充実されていると思う。今後も役割分担を行いながら院内全部署訪問や委員会に参加し、職員とともに医療安全活動を展開していきたいと考える。これからも職員のご理解とご協力をお願い致します。

## システム管理室

吉内 剛

吉内 剛、柏崎 研一郎、鎌田 泰史

### 【令和3年度 システム管理室年間目標】

- ・電子カルテ及び付随システムの安定稼働
- ・各種改定作業への対応
  - 診療報酬改定対応、次期システム導入対応
- ・電子カルテ端末の入替対応



### 【実績】

- ・電子カルテおよび付随システムの安定稼働  
年間を通して大きなトラブル等なく、安定稼働でした。しかし、ハードウェアの不調(経年劣化、パーツ供給中止等のため)もちらほら見受けられてきているため、システムのハード更新を随時行えるよう計画を立てていかなければと思っております。
- ・診療報酬改定対応について  
今回の改定についてはシステム的には細々とした設定変更が多く、医事課をはじめ、担当部署の方々にご助力いただき、問題なく終了しています。改定後のシステム運用においても、今の所は大きなトラブルはありませんが、調整の為の設定変更の問い合わせは数件ありました。安定でかつ確実なシステム運用を目指し、随時対応していきたいと思っております。
- ・電子カルテ入替について  
Windows7の端末を随時Windows10端末に入替を行っています。  
端末自体の準備は完了していますので、トラブル等のタイミングで随時入替を行っております。使用場所や使用者で端末が変わるものもあり、特殊なもの(接続端子に旧型の物が必要等)以外は故障のタイミングで交換を行っていければと考えております。

### 【目標と実績の振り返り】

今年度はコロナの影響を受け、組織的・運用的に変更を行うことが多々ありました。システム管理室としても対応できる案件に関しては対応してきたと思っております。しかし、ネットワークの面で無線環境が多く使われることに対する対応が不十分であったかと反省しております。

オンラインでの面会、Zoomを使用しての会議や打ち合わせ、勉強会など以前に比べ使用する機会や規模が多くなり、今までの設備では追い付かなくなってきました。各部署にはその度に協力をお願いし、運用を工夫することで補ってきましたが業務負担軽減、利便性を考えネットワーク改修を計画しております。

規模が大きくなれば保守面が大変になると予想されますが、そこはシステム管理室3名で頑張りたいと思っております。

#### 【令和4年度 システム管理室年間目標】

- ・電子カルテおよび付随システムの安定稼働
- ・ネットワーク設備改修
- ・トラブルへのサポート強化、及び業務改善への積極的対応
- ・電子カルテ端末入替え対応の完遂

#### 【総評】

前年度からの新体制(3名体制)は、1年を経て安定的に業務を行えるようになったと感じております。しかしまだ、部内周知など徹底されていない面もあるので今後の課題として一丸となり対応していきたいと思っております。

本年度は、ハードウェアの更新が多々予定されております。経年による不調や今後の運用に沿う形での設備改善等、よりよい環境の構築を目指して計画が進んでおります。マンパワー不足を改善する1案として、システム管理室ができることを最大限行いたいと思っております。

今後も病院職員の皆様の業務がより円滑に実施できるよう、加えて患者様がよりよい環境で過ごせるよう業務を行ってゆく事にかわりはありませんので、引き続きご協力のほど、よろしくお願いいたします。

## 感染制御部

看護部 副師長兼看護部長補佐 下江 理沙

#### 感染対策チーム

専任医師／松本 松昱 専任薬剤師／濱口 匠 専任検査技師／遠藤 禎幸  
専従看護師／下江 理沙(感染管理認定看護師)

#### 感染対策リンクチーム

リハビリ／大坪 正拓、川原 理栄子 外来／坂下 紀子 2階／今鞍 しえり、安本 響  
3西／日高 靖浩(令和4年1月まで) 4階／羽島 民子、白河 智子 透析／鮫島 理枝子、古田 雄大

#### 【令和3年度 感染制御部年間目標】

新型コロナウイルス対策の継続からスタッフのモチベーションを維持できる感染活動の充実を図る

#### 【実績】

##### 1)院内

##### ●全体研修

- ①新型コロナウイルス対応とこれからの感染対策  
演者:下江(7月2、8日・※7月19日～7月31日※web)
- ②今年度導入や変更をした物品の使用状況と感染対策  
演者:下江(2月22日・25日・28日)

##### ●部分研修

- ①新型コロナウイルス感染症におけるPCR検査・抗原検査について  
講師:病院長(7月28日)
- ②新型コロナウイルス流行拡大と感染力の強さに伴う感対策強化  
講師:病院長(8月4日)

### ③クロストロジウム・ディシフル(CD)関連疾患と感染対策について

演者:下江

#### ●実践活動

- ①ベッドバンウォッシャーの導入(7月)
- ②使用済みリネンの管理方法見直し(委託業者との調整)
- ③手指消毒剤個人持ち導入(8月)・非アルコール製剤手指消毒剤の導入・スキンケア対策スキンクリームの導入
- ④非滅菌手袋の製品交換(12月)
- ⑤3月COVID-19クラスター発生対応
- ⑥週一院内新型コロナ対策本部(令和2年3月より継続)
- ⑦月一西之表保健所・熊毛地区医師会・市町行政合同新型コロナウイルス対策会議(令和2年5月より継続)

#### 2)院外

- ①島内介護施設COVID-19発生後の対応支援(4月・5月)
- ②県内医療機関クラスター対応支援活動(5月22・23日、6月12・13日)
- ③感染症地域連絡研修会(西之表市6月22日、中種子町6月28日、南種子町6月30日)
- ④障害者施設等への現場支援(11月2日)

#### 【目標と実績の振り返り】

新型コロナウイルス流行に伴う院内体制強化が令和2年度に引き続き行われた。外来診療では、発熱外来受診や濃厚接触者対応が連日多く、現場支援で入ることが多かった。

院外活動で得られた情報や学びを院内対応に還元できるよう努め、具体的には、手指消毒剤の個人持ちの導入や昨年度から取り掛かっていた手袋採用品の変更、ゴーグル導入も行い、個人防護具が新型コロナウイルス対応でフルPPE装着であり、通常における個人防護具の使用方法を見直す時期として動く。

通常業務の改善は、主に環境整備であった。昨年度から新規採用や変更した感染対策にかかわる物品の使用状況の評価を行い、結果をもとに全体研修で改めて使用方法について再周知するができた。

また、新型コロナウイルス感染症対策の強化期間が長期化しており、現場の疲弊感の垣間見えや対策強化遵守継続への協力が見られない様子が見受けられた時期もあり、病院長より“新型コロナウイルスへの対応として大事なこと”を講演いただき、組織としての新型コロナウイルス対策、医療機関としての対策の大事さを現場と共有できる機会となる。

第5波までの新型コロナウイルス流行は、地域流行への対応が主であったが、第6波流行時期となる3月に院内クラスターを経験することとなる。職員の体調不良、入院患者の症状訴えがきっかけに院内発生を検知することとなった。

約1ヶ月激動の日々であった。これについて、後で詳しく述べる。

院外活動では、鹿児島県や鹿児島県看護協会の活動に参加させていただき形で貴重な経験をすることができた。外部支援という形で、自身の学びとして参加させていただいた。

令和3年度は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス対応に追われた一年であった。前向きな意見として、新型コロナウイルスを通じて、感染対策について全職員が同じ方向を向き取り組むことができたことは、今後の感染対策につなげられる大きな成果であった。

#### 【令和4年度部署の年間目標】

- 1)感染症クラスター経験と今後備え、標準予防策・感染経路別予防策の周知・実践が充実できる
- 2)感染対策向上加算地域連携として、島内医療機関との感染対策における関係性づくりの構築